LION'S

DISTRICT 333-C NEWS 2011 AUTUMN Ver.

草原(B)大　星　襄一　1972

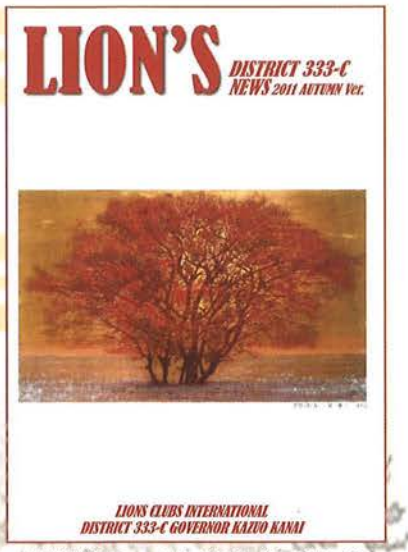
LIONS CLUBS INTERNATIONAL
DISTRICT 333-C GOVERNOR KAZUO KANAI

LION MAGAZINE IN JAPAN　2011 AUTUMN Ver.

LION'S

We Serve

CONTENTS



表紙デザイン：Ｌ井上和彦（八千代ＬＣ）

1　驚愕なメッセージが届けられた

2　ライオンズクラブＡＬＥＲＴ・威力発揮

4　「助け合おう日本」地区青少年育成・ＬＥＯ委員会　委員長　Ｌ大瀧勝明

6　「助け合おう日本」レオクラブ活動写真集

8　レオレポート

- 8…ＬＥＯ川﨑光久
- 10…ＬＥＯ大澤香奈子
- 11…ＬＥＯ小倉美穂
- 12…岩井允（10Ｒ一般参加）

13　劇団サンブ・ステップス　ミュージカル公演

14　女性会員フォーラム

- 14…女性会員フォーラム開催
- 15…ソニア・プーリー国際理事
- 16…グッドラン・イングバドター国際理事
- 17…実行委員長　Ｌ長澤千鶴子
- 18…女性会員増強委員長　Ｌ豊岡悦峰
- 19…元国際理事　Ｌ後藤隆一

20　2010～2011年度ＹＣＥ派遣生報告　地区ＹＣＥ委員長　Ｌ山村憲一

- 20…鈴木敬子（行徳ＬＣ）
- 20…井出智子（柏中央ＬＣ）
- 21…後藤有里（船橋ＬＣ）
- 22…林　百華（市原コスモスＬＣ）
- 22…日沼　歩（佐倉中央ＬＣ）
- 23…橋岡史江（佐倉むらさきＬＣ）
- 23…伊藤桃子（八日市場ＬＣ）
- 24…篠塚紗也香（大栄ＬＣ）
- 25…石井亜実（木更津ＬＣ）
- 25…前嶋まりあ（千葉九十九里ひまわりＬＣ）

26　2010～2011年度夏期来日生受入報告

- 26…Felipe Alberto Campos Caldera
- 26…Ｌ花澤満雄（袖ケ浦ＬＣ）
- 27…Ｌ深山和夫（茂原ＬＣ）

28　女性支援対策本部報告

30　東日本大震災支援活動掲示板

50　表紙の解説＆読者プレゼント

51　編集後記・前号訂正・次号予告

52　入会のご案内

「特集ＡＬＥＲＴ東日本大震災支援」

「特集 女性会員フォーラム」

※写真右側から二人目が、L角河博文

333−C地区 12R 2Z ZC L角河博文の報告から

驚愕なメッセージが届けられた

我々に何ができるか、生きるとは何かを試されるとき

文・333−C地区　地区ガバナー　L金井一夫

はじめに

東日本大震災に被災された方々に、お見舞いを申し上げると共に、早く復興されることをお祈り申し上げます。

また、333−C地区（千葉県）では、いち早くメンバーの方々が、物資の支援を積んで現地入りし、その驚愕なメッセージと共に、各メンバーが支援の熱い思いを奮い立たせました。その思いが伝えられたら幸いと存じます。

驚愕なメッセージ

大網白里ライオンズクラブ単独で、岩手県釜石市へ支援物資を届けた。

現場に行って見るとそこには、壮絶かつ過酷な避難所生活をしている現場がある。大きい避難所から小さな避難所まで沢山ある。県や市の倉庫には山ほどの物資が全国から寄せられている。しかし避難所に物資を取りにいけない。また、市では分配する職員がいないなど、現実には、避難民に物資が配られていない混乱していた実情がそこにあった。

我がライオンズクラブでは、そんな避難所へ直接物資を届けている。前回の物資は記してあるように、現地の声を聞きながら、その声に応えようとまた足を運ぶ、なぜそうさせる。前回タマゴ200個トマトなど持っていった。避難所では800名の人には、とても分け与える量ではない。しかし、それを二日に分けてみんなで食べよう。そう一個のタマゴを8名で食べるのである。トマト八等分の一切れづつ、みんなで分けて食べるのであるが、それを涙流して食べているのである。非常食用のカップラーメンなどはもう体が受け付けない…。そんな現実を見るとまた届けようと言う気持ちを掻き立てられる。

ご飯は、自衛隊が時間になると定期的に炊きだしで持ってきてくれる。それを女性達がおにぎりを作って、みんなで食べるのであるが、塩も海苔も梅干しもないおにぎりである。調味料がない、そんな食生活である。

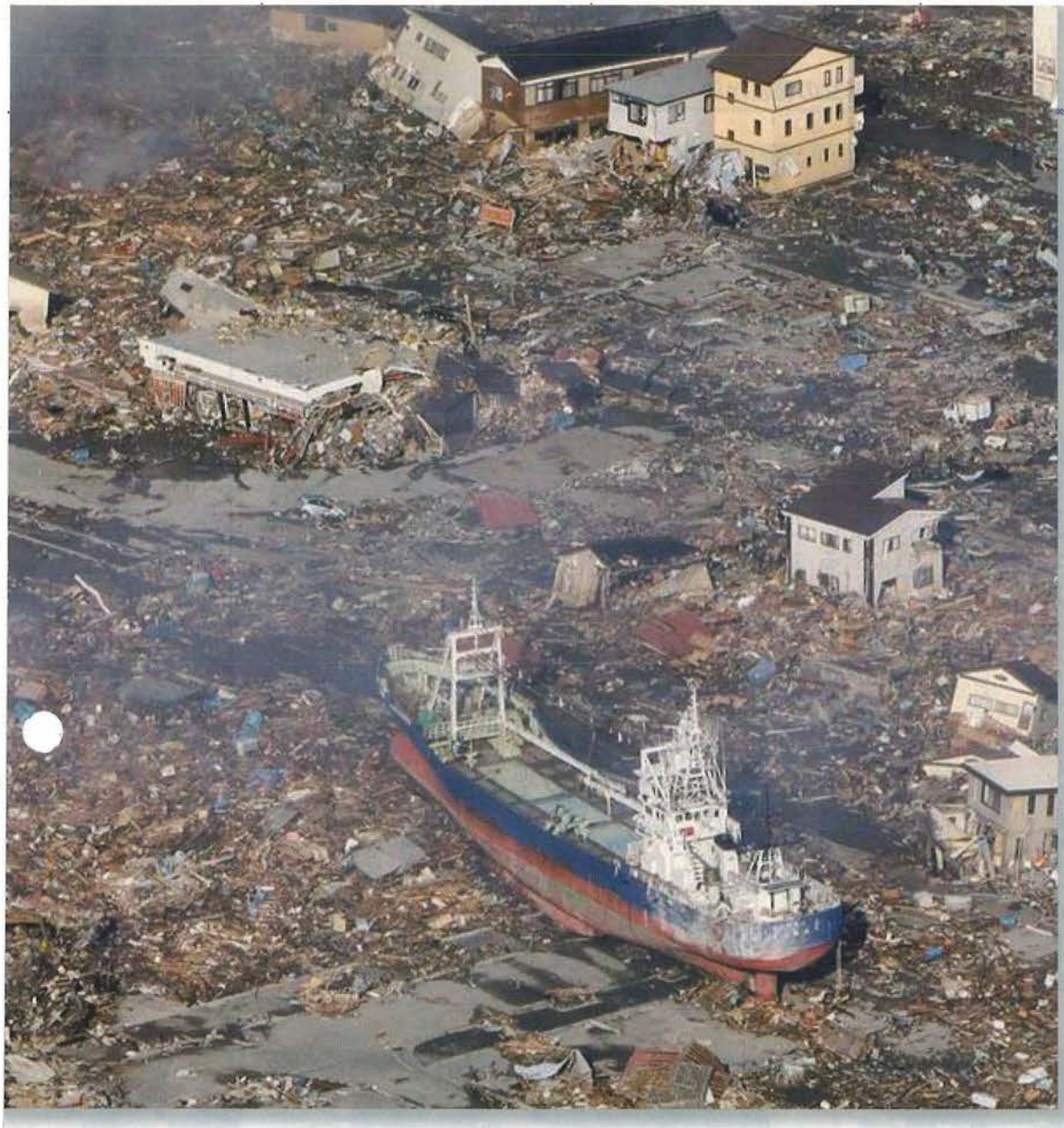
こうした物流は、時間の問題だと思うが、その間、我々ライオンズクラブのピンポイント支援が必要だと認識している。現地に足を運べば、何が今必要なのかが分かるからだ。そしてそれを直接手渡すのである。

800名規模の大きな避難所、または10名や20名や30名での小さな避難所が無数にあることを皆さんは知らないと思う。そんな所へ出向き渡して来るのであるが、我々一クラブでの支援はスズメの涙ほどしかないが、それでも届けたい一心で車を走らせる。

避難所で2週間お風呂も入っていない。洗濯もできない。出来るのは体を拭くだけである。女性の下着も必要だ、それに付随した物なども必要なのであり、そして夜はマイナス3℃、毛布一枚で過ごすのである。

前回は元地区ガバナーL小西宗仁からの紹介で、船橋さざんかライオンズクラブのL青木明子から私たちに何ができるかと聞かれて、野菜が欲しいと言ったら、その晩にJAいちかわ船橋地区青年部に依頼して、畑から野菜を採っていただき、1tトラック一台分を頂いた。野菜類も現地には一切ないのである。

そんな事から、次回は、茂原長生LCからサツマイモを、そして大網白里ライオンズクラブ会員L田辺国晴からの提供でタマゴ6000個を届ける予定となり、岩手県釜石行きは、まだまだ続く。



ライオンズクラブALERT・威力発揮

今回の大震災で、大活躍したライオンズクラブの支援について振り返る

文・地区情報（PR・IT・ALERT）委員長　L松本宰史

ライオンズクラブのALERTは、どう言うものなのか？

ALERT（アラート）そのものは危機管理と言うことですが、災害等へ支援を行います。

特に東日本大震災で、ライオンズクラブの組織の素晴らしさ有意義さが発揮されたと考えています。

いざ災害等があったとき、即行動が起こされます。その行動を実行するには、情報の伝達が要となり、今はインターネットを通して連絡体制が取れる時代です。そしてもっとも重要なことは、ライオンズクラブの組織の連携で「フェイス・トゥ・フェイス」で支援できることです。

今回、支援物資について大きな問題になりました。国や市町村などから沢山の支援物資が各被災地へ届けられましたが、それが迅速に被災者に充分に届けられなかったことです。

それに対して、我々は、全国各地にライオンズクラブが存在し、被災したクラブを通して支援できたのです。行政や大きな救援団体頼みでは、必ずしも必要な時に必要な物が届けられない、行政管理の避難所に対しては、支援物資があるのに、それ以外で数家族で肩を寄せ合って避難している所、いわば手の届かない所も沢山あり、個人的に避難している方々には物資が届けられないなどありました。地元ライオンズクラブでは、詳細に状況把握できる立場でもあり、少数の避難所へフェイス・トゥ・フェイスで届ける事ができました。「ライオンズクラブでは、こんな小さな避難所へも届けてくれてありがたい」などと感謝の言葉が多数寄せられました。

大事な事は、地元ライオンズクラブからの支援発信です。何が欲し

い、何かして欲しい事など具体的に手を上げることです。たとえばこんな事がありました。燃料系統の供給が一切途絶え、市などに全国から集まった物資があり、それを貰いに行きたいが、そこまでのガソリンが無いと悲鳴が上がったのを覚えている方も多いでしょう。当時はまだまだ気温が低く、灯油がなく暖が取れない。その時には関東にも余裕のある燃料はありませんでした。しかし、そこは全国組織のライオンズクラブです。関西から翌日にはタンクローリが現地に向かって動いていました。行政では、こんなことはできません。素晴らしい連係プレーだったと思います。

また、街頭募金でも、フェイス・トゥ・フェイスで募金された義援金は、確実に現地支援されました。あるクラブでは周年行事のための積立金をしていましたが、その積立金を義援金として使いたいとし、ある団体にその旨の電話をしましたが、振込先を教えてくれただけです。そんな対応から、それよりも直接被災地へ届けようと、義援金をもって現地に向かいました。それは素っ気ない電話での対応とは当然違い、感謝の声と共に暖かく迎えられました。そして更に感謝を表すために、遠方より足を運び、支援してくれたクラブに例会訪問し、直接お礼が述べられました。正にライオンズクラブとしての支援の在り方だと思います。こうして台湾、世界のクラブや会員からもこのような支援が沢山あった事、などのお話を聞いており、世界レベルでのフェイス・トゥ・フェイスでの支援ができるのも、ライオンズクラブの良い所です。

被災された各地で、ライオンズクラブ支援活動が様々な形で歓迎され、それらの活動が被災された地域で、受け止められたことは素晴らしい成果であったと思います。

改めて、ライオンズの組織が一丸となった支援活動が発揮されていることを再認識し、ライオンズクラブの一員であることに誇りを感じるものです。

「祈り」　7月18日、千葉県館山市那古観音の縁日、坂東三十三番の観音巡礼、札所の最後を受け持つ那古寺の祭礼が行われました。那古寺の住職は、南房総ライオンズクラブ所属L石川良和であり、今回は特別に東日本大震災の復興を祈願し、お祭りを通して自然災害への恐怖への祈り、多くの尊い命を失った方々や、そのご家族の深い悲しみ、そして未来への復興へご祈願をしました。

「助け合おう日本」

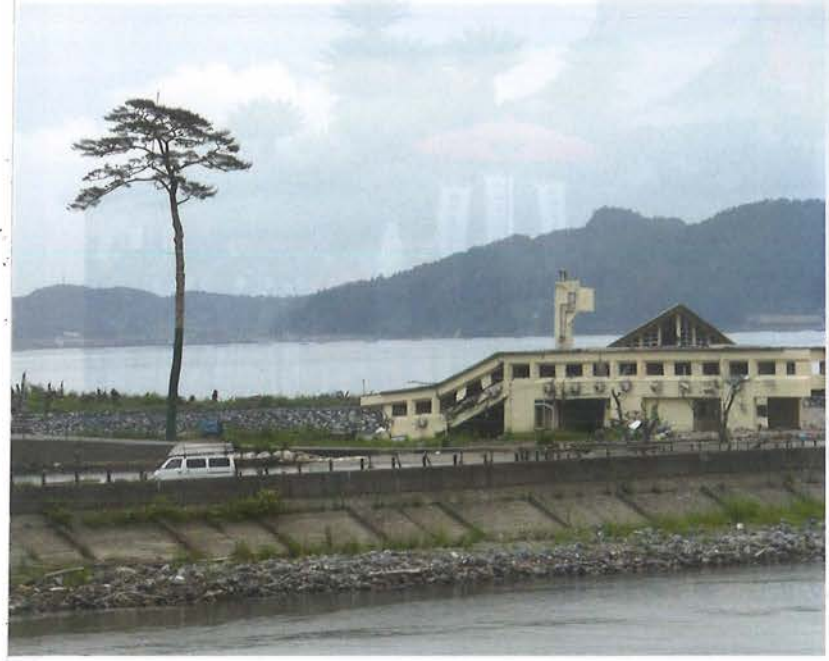
文・地区青少年育成・ＬＥＯ委員会　委員長　Ｌ大瀧勝明

今回の復興支援ボランティアと研修の目的は、「助け合おう日本！」のスローガンのもとに、３３３－Ｃ地区のレオクラブ関係者に、東日本の災害支援の機会を与え、現地にて災害支援活動を体験し、３３３－Ｃ地区レオと３３２－Ｂ地区や、３３５－Ａ地区との交流を図り、参加していただく地域の青少年達に、これを機会にレオクラブに、このような活動に関心を持って戴くことでした。

また、ライオンズクラブメンバーには、３３２－Ｂ地区のレオクラブの組織を理解して戴き、各高校の中にレオクラブを立ち上げることができればとの考えもありました。

参加者は君津地区グループ24名、銚子地区グループ35名（千葉科学大学25名）、鎌ヶ谷地区グループ22名、大網白里ライオンズクラブ20名、白子ライオンズクラブ4名、参加者の合計は１３０名となり、３３３－Ｃ地区のレオクラブの事業としては、最大級のアクティビティとなりました。

２０１１年８月19日(金)の深夜に四か所からバスで出発し、安達太良ＳＡで槇の木レオクラブメンバーと君津レオクラブメンバー、大網白里クラブメンバーが集合、前沢ＳＡで銚子中央レオクラブメンバーと合流、目的地の釜石市鈴子広場に到着したのは、８月20日(土)の午前八時でした。それから、仮設住宅へ物資の配給、仮設住宅周辺の草刈、仮設住宅へ物資の移動配達、道路わき花壇整備、除草、釜石保育園慰問等、五つの活動に分かれ支援活動を行い、昼食をはさんで午後三時半まで災害地の支援活動を行いました。この日は、とても暑くて、屋外作業のメンバーは、大変なご苦労をされたと思われます。その後に地震、津波、火災に見舞



われました大槌町を見学し、陸中海岸グランドホテル別館の大広間で、睡眠をとりました。

翌日8月21日(日)は朝からの雨で東北地区最大の被災地陸前高田を見学しました。余りの状況に誰一人として声を発する人もなく、その災害の大きさにただただ驚くばかりでした。そのあと昼食をとり、北上市「ふるさと体験館」にて3地区合同レオクラブによる植樹を済ませ、「３３２－Ｂ地区　第32回レオフォーラム」に参加させていただきました。３３２－Ｂ地区のレオクラブは高校が協力してレオクラブを運営しており、とても参考になりました。これを機会に、高校内でのレオクラブを検討していこうと思いました。

最後になりましたが、今回は大網白里ライオンズクラブのＬ角河博文のご協力を得て、東日本の被災地区の研修ができましたことを、深く感謝申し上げます。またこのような事業の企画を進めて戴いた３３３－Ｃ地区ガバナーＬ金井一夫や、３３２－Ｂ地区ガバナーＬ高橋晴彦、そして現地に御同行戴きました３３３－Ｃ地区の第１副地区ガバナーＬ長澤千鶴子、第２副地区ガバナーＬ正木守のご指導のおかげをもちまして、この研修を無事に終えることができましたことに、篤くお礼申しあげます。

参加レオクラブ

３３２－Ｂ地区
盛岡レオクラブ
早池峰レオクラブ
石鳥谷レオクラブ
北上レオクラブ
一関二高レオクラブ
釜石レオクラブ

３３３－Ｃ地区
君津レオクラブ
槇の木レオクラブ
船橋レオクラブ
銚子中央レオクラブ

３３５－Ａ地区
尼崎レオクラブ
神戸レオクラブ
西宮レオクラブ
神戸セントラルレオクラブ

お礼とお詫び

参加者の皆様レポート提出ありがとうございました。誌面の関係から全員のレポートは掲載できませんでしたのでお詫びを申し上げます。また、この体験が、それぞれのレオ活動や、人生の中で役立つ事を信じています。

仮設住宅周辺草刈り&道路脇花壇整備・除草

仮設住宅住民へ物資配布

3地区 332−B 333−C 335−A 合同レオ・フォーラム

3地区合同レオ・フォーラム記念植樹

参加レポート

君津レオクラブ
LEO　川﨑光久

被災地ボランティアについて

8月20日(土)の被災地ボランティアは千葉県からの作業要員が3チームに別れ作業に当たった。

①被災者仮設住宅への物資の運搬および配布
②仮設住宅周りの除草作業
③周辺花壇の整備

ボランティアに当たっての感想

私は、前項にある②仮設住宅周りの除草作業に当たった。作業は30部屋ほどある住宅周りの除草である。夏だということ、恐らく一度も除草されていないことから、背の丈以上の草が生い茂っていた。現地では役所の方から道具を貸与されたが、人数分あるわけではなく、手作業での草むしりとなった。こんなことなら、道具を持ってくればよかったと軽く毒づきつつ作業に取り掛かった。

何のことはない草むしりなのだが、これがなかなか大変。何せ背の丈を超えるような草が生えているのだ。太いものになると茎も3㎝を超えていたように思う。幸いだったのがこの日の天候で曇天。作業開始時の気温は25度弱だったように記憶している。なので作業中、熱中症などを訴える者も出ることはなかった。

作業開始から1時間経過し休憩に入ったが、この1時間で終えられた箇所はわずか。このペースでは今日中に終わらないと思い、私が作業していた場所から住宅を挟んでちょうど反対側の土手周辺（仮設住宅のそばには川が通っていた）の、エンジン式の草刈り機で除草作業を行っていた1～2人に救援を頼み、休憩後は彼ら文明の利器に頼ることにした。今まで素手で行っていた我々は、刈り終わった草を袋に詰める作業に当たった。今までの1時間がまったく無駄だったのではないかと思わざるを得ないくらい、草刈機のパワーはすさまじく、見る見る草が倒されていく。我々素手班もせっせと袋詰めを行った。素晴らしい連携作業だ。

途中に昼食・休憩を挟みながら終了時刻の15時には、予定していた箇所の除草を終えることが出来た。中途半端で投げ出していく事ほどみっとも無い事はない、と思っていたので良かった。

作業終了後、何人かの住民が部屋から出てきて、お礼を言って下さったのは嬉しかった。さわやかな気持ちとは裏腹に、体の臭いは酷い事になっていたが…。

被災地視察について

これは筆舌に尽くし難いものがあった。報道でおおよその現状は理解していたが、震災から5ヶ月以上経っているにもかかわらず、いまだに撤去されていない瓦礫や建物・車などが多数あり、非日常を味合わされた。本当にひどい有様で、テレビや新聞では伝わらないものがそこにあったように感じた。

ここで、何千人も死んだ。その事実は恐ろしく、言葉を失わせた。一瞬にして街を飲み込んだ津波。背の高い建造物などには、その痕が残っており、ただただ呆然と眺めていた。

亡くなった方たちは非常に残念だが、生き残った人々や我々で一刻も早く復興せねば、と感じた。

レオフォーラムについて

332－B・333－C・335－A地区参加のレオフォーラムに参加した。我々は途中参加になったのだが、まず植樹を行い、それからレオフォーラムとなった。

レオフォーラムでは各レオクラブの活動報告などがあったのだが、地域ごとに特色があり面白いと感じた。332－B地区のレオクラブは学校にレオクラブがあり、メンバーは別の部活動と掛け持ちをしたりしながら参加しているようだ。

今後活動する際に参考にしたいと思える点があった。

まとめ

今回の研修では非常に良い経験が出来たと感じている。メディアを通しては伝わらない、現地の雰囲気・声などを感じることが出来た。これは、今後の人生において絶対にプラスになると確信している。具体的にというわけではないが、私の意識・記憶の中には確実に残り、今後に生かしていくことになると思う。

最後に、今回の研修に関わった方々、ありがとうございました。そして、お疲れ様でした。

ボランティアの感想

君津レオクラブ
LEO　大澤香奈子

8月19日より3日間、君津レオクラブに入会してから初めて他のレオクラブと合同でボランティア活動をおこなってきました。

3月11日に阪神淡路大震災以来の大地震が起こり、多くの犠牲者を生んだことは5ヶ月経った今でも人々の心に深く焼きついていると思います。毎日のように報じられる放射能や被災地状況などの震災に関するニュース。同じ日本に住んでいる人々が助けを求めている。そんな中で今の自分には何ができるのかを日々考え続けていました。

そして今回、親クラブの支援のもと2泊3日の東日本大震災復興ボランティアに参加させていただきました。私にとって、このボランティア活動は自分を大きく成長させる機会となりました。

実際に、仮設住宅の人々へ物資の配給というボランティアをおこなってみると、被災地の人々が今どのような物資を最も必要としているのかがわかりました。そして、最悪の状況にあっても復興を目指して前向きに立ち向かう東北人の強さを感じました。被災地の見学では陸前高田市を回りました。他県民の私が被災した町を観ても胸が痛むのに、自分の住んでいる町だったら…と思うと、目を瞑りたくなるほどの光景が広がっていました。途中ガイドの方が千本松原についてお話してくださいました。しかし、今では千本あったという松の木々のうち一本だけが被災した町に立っていました。

多くのものを失ってしまった被災地の方々の心を簡単に知ることはできませんでしたが、3日間で学べたことはたくさんありました。その中でも私が一番考えさせられたことは〝ボランティアの輪〟です。

実際にレオクラブに入り何人もの知り合いが増えました。そして今回の活動でも、槙の木レオクラブの仲間始め被災地の方々など多くの方々と交流をし、輪を広げることができました。私自身〝被災地のために〟と思い参加したボランティアでしたが、被災地の方々からたくさんの笑顔をもらい、却って私が元気をもらったような気がします。

これからも、被災地の方々からもらった元気を無駄にしないようレオでのボランティア活動に力を尽くしたいと思います。

岩手県でのボランティアを経験して

君津レオクラブ
LEO　小倉美穂

今回、レオクラブの一員としてこのボランティア活動に参加し、改めて東日本大震災での被害の大きさを理解しました。3月11日の大震災の日、テレビで津波により家や車が流され飲み込まれていく様子を見ました。とても恐ろしいとは思いましたが、正直なところ、同じ国で起こった出来事ではないような、どこか他人事のように感じました。

しかし、実際に現地へ行ったとき、積み上げられている車や、形はかろうじて残っているけれど中側がすっぽりと抜けてしまっている建物や、めちゃくちゃになっている民家などを見て涙がでそうになりました。そこで初めて、被災地の現実を理解しました。私が思っていたものなんかより、何倍も何倍も悲惨な状態でした。仮設住宅に住んでいる方々へ支援物資を届ける活動をし、被災者の方々が「ありがとう。」や「どうも。」と言ってくださる度に、災害で苦しんだ被災地や被災者の人たちのためにできることは何かと考えさせられました。そして、バスの中で聞いた全員が助かった幼稚園の話と、犠牲者がでてしまった小学校の話がとても印象的でした。私はこれまで、学校での避難訓練をいつも『面倒だ。』と思いながらだらだらと行っていました。ですがこの話を聞き、今まで真面目に災害のことについて考えていなかったことを恐ろしく思いました。もし私が避難しなければならなくなったとして、何処へ避難すればいいのか、最低でも何を持って逃げるべきなのか、家族と離ればなれになったらどうするべきなのか、何もわからないかもしれないということを実感しました。

この被災地で聞いた話や、見たものは、私の考えを変えました。災害について今まで以上に考えることになりましたし、何より、被災地のために何かできることはないかと考えるようになりました。「何かをしてあげたいなぁ」ではなく、「何かをしなければならない」と思うようになりました。また他に機会があれば、個人的にもボランティアとして何か役に立てるようなことをしたいと思っています。

ライオンズクラブ合同ボランティアレポート

10R一般参加
岩井　允

・参加へのきっかけ

3・11から2・3日後の新聞に掲載されていた写真を見た時、とても衝撃的だった。

震災当日私は鎌倉市にいて、帰宅困難者という経験をし、ただ巨大な地震で、首都圏の交通網が大変なことになっているとしか思えなかった。

東日本太平洋側に〝大津波警報〟が出ていることは車中、ラジオから流れ、ニュースで知っていたが、どこか他人事のようにしか考えていなかった。

そんな中、新聞の1面に移っていた写真を見て、胸が痛くなり、言いようのない悲しい気持ちになったのを忘れることはできないだろう。

そして、少しでも被災された方々へお手伝いできないかと考えるようになり、知人からライオンズクラブ合同ボランティアの話を聞いた時に機会をもらえたことにまず感謝！

・除草ボランティア

釜石市内の仮設住宅へ着いた際、年配の女性がボランティア全員に『ありがとうございます』と声をかけていたのが印象的だった。

作業自体は草刈りだったが、もし被災された方に話しかけられたら、何と声をかければよいか？

いい歳して恥ずかしい限りだが、相手のことを考えすぎるあまり何も言えなくなる自分が情けなくなる。

そんな事を考えながら自分にできる除草作業を黙々と続けていたのだが、同行している学生の子達には感服の一言だ。

一人ひとり参加の目的は違うのだろうけど、ボランティア仲間とお互い声をかけ合い元気に作業をしている。

作業は予定通り終了できたのだが、皆で行った作業が少しでも役に立ったと信じたい。

・被害を肌感覚で知る

おそらく被災地へ赴いた人は誰もが思うだろうが、メディアからの情報と実際に現地で見たものとは全く違う印象だった。震災から5ヵ月、現状を見て復興には時間がかかるという現実を思い知らされた。

また、震災から4日後までの被災地の状況を聞いたとき、うまく説明できないほどやるせない気持ちだった。

以前メディアから映し出された映像が脳裏によぎったのが、下の写真だ。

どこの避難所かはわからないが、この写真は炊出しに涙する女性と紹介された写真だ。

釜石市の避難所でも震災以降食事は、5㎝程のウィンナーを1㎝程度に切り、一人一つおにぎりの半分一つが一食、それが4日間続いたとのこと。

3月の寒さと不安、続く余震…。実際に現地まで行き、話を聞いた後、あらためて写真を見た時に涙が出た。

今回のボランティア活動に参加できたことは大変ありがたいことだ。

今までの私の様に機会、きっかけがない人もいるだろう。今後、一人でも多くの人にこの様な機会を与えてほしい。

早い復興にもつながるし、被災地の現状を知る機会にもなると思う。

ミュージカル公演

劇団サンブ・ステップス
（山武郡九十九里町）

釜石の保育園の紙芝居・物資支援等続けている中で、劇団サンブ・ステップスから釜石に連れて行ってくださいとお話があり、交渉した結果釜石市内の2ヶ所の幼稚園の公演依頼がありました。

8月29日にレオクラブ夏期研修に同行し、釜石保育園と小河幼稚園で開催しました。劇団員は中学生が中心で、演出から全てを自分達でおこなっている劇団です。

そんな子供たちの劇団ですが、いざ公演してみたら迫力のある歌と踊りは素晴らしい演出でした。

園児が真剣になって一時間半も見入ってしまった事に、園長先生も驚いていました。

そして、12月公演もリクエストがあり、12月23日に決定しました。

小河幼稚園

釜石保育園

2011 in 333-C（千葉県）

全国から220名以上が結集！

日本ライオンズ　女性会員フォーラム

～これからのライオンズの活性化は私たちの手で～

L金井　一夫

女性国際理事アメリカ・アイスランドから来日参加！

目指せ世界水準！

主催：333－C地区（千葉県／地区ガバナーL金井一夫）
企画：国際協会女性ワークショップ参加者一同
（代表：L河合悦子［2010-2011年度330－A地区ガバナー］）
会場：ホテル「ヒルトン東京ベイ」

Lions Club International District 333-C

SONJA PULLEY INTERNATIONAL DIRECTOR

ソニア・プーリー（二年目理事） アメリカ合衆国ポートランド、オレゴン州

Portland Downtown Lions Club 所属　1985年に入会

SONJA PULLEY

Good morning everyone.

おはようございます。

こうして日本に来ましたこと大変嬉しく思っています。皆さんのスタッフを見て、とてもワクワクしています。

とても沢山の方が、いらっしゃっていること素晴らしいと思います。そして意見を交換しながら、活発にディスカッションされるのを見ながら、ご意見をお聞きしたいと思っています。

皆さんから出されたご意見を、私はできる限り国際レベルのリーダー達の元にお伝えることをお約束したいと思います。特に女性、そして家族会員、リーダーシップの活躍と言うものを伝えたいと思います。

お仕事は今でも、と聞かれますが、今も現役で働いています。

先ほどＬ金井ガバナーから家族のお話がありましが、私は、姉妹は一人もいません。兄弟ばかりで育ちました。

私は、ライオネスとして1985年入会しました。1989年一度解除となりました。そして1992年ポートランドダウンタウンクラブに対して、自分でライオンになりたいと申し出ました。そして地区ガバナー、協議会議長、そしてシドニー国際大会にて国際理事になりました。

ウインクン・タム国際会長は女性会員、家族会員の増強に非常に力を入れておられます。

そして、タスクフォースを結成したのは、そういった背景があります。

私達すべきことタスクフォースは、女性会員、家族会員を増強するための機会、そして課題を特定し何をすべきかを考えることです。私達がどうすべきかを調べた上において、国際レベルのリーダーに落として行く、また、意見を吸い上げたものを活かして行くことが私達の任務です。

私、個人としましては、より多くの人に女性ライオンとして私の経験している素晴らしい事を経験して欲しいです。個人的成長、特にリーダーシップを磨くと言う事は、ライオンズだけでなく事務所にも生かせるスキルでしょう。

そしてさらに、今日このようにより多くの人、世界中の人々と出会い、その方からの経験や声を聞き話合うってこと。私達みんなの共通していることは、情熱そして心、地域の人達のために私達何ができるかと言う情熱です。

今日、参加して頂いた事に本当に感謝を申し上げますと共に、お一人お一人と直接お話ができる機会があればと思っています。

ありがとうございました。

GUDRUN YNGVADOTTIR INTERNATIONAL DIRECTOR

グッドラン・イングバドター（二年目理事） アイスランド

Gardabaejar Eik Lions Club 所属　1992年入会

GUDRUN YNGVADOTTIR

Good morning.

こうして今日、日本にこられたことを非常に嬉しく思います。それはこの国が美しい国であること、そして日本の方々は非常に温かい方々であること、それだけの理由ではありません。私が本当に、ここに来られて嬉しいことの、一番重要な理由と言うのは、理事会のメンバーとして過去非常に女性会員を急速に増やしていること。そしてどのようにそれを成し遂げていると言うことを知りたいと言うことが一番の理由です。

昨年、ワークショップが日本で行われました。ヨーロッパでも行われました。直後に理事会がありました。

ヨーロッパのこと、そして私の国アイスランドのことを少しお話します。私達、とても非常に遠い所から来ました。アイスランドは、少し日本に似ています。島国で、火山があります。温泉があります。そして、赤い羽根を日本と同じようにおこなっています。2、30年前にそのことを知りました。スカンジナビア半島全ておこなっています。今、日本人観光客がアイスランドでは、一番増えています。そして、日本の車を乗っています。

ヨーロッパの国々では、女性会員の割合は非常にバラツキがありまして、10%とから15%の国もあれば、50%も女性と言う国もあります。アイスランドでは30%位で中間平均であると思います。

私の所属しているクラブは全員女性で 40 名のクラブです。男女混合クラブより女性のみのクラブの方が多いです。それは国によって、自分たちに合った形であれば良いことだと思います。しかし一番大事なのは男性と女性がいて協力しているということです。

アイスランドでも、日本と同じく、女性会員がもっとも急速に増えている国です。そしてヨーロッパの中でもアイスランドでは、毎年会員が増え続けています。殆どが女性です。2004年に女性のイニシアティブというものが始まったとき、アイスランドは女性と男性の会員に違いがありました。人々はどうしてライオンズに入会するのか、そして、ライオンズに止まり続けるのか、また、どうして退会するのかと言うことを調べました。私達は、そこで分かったことは、同じように奉仕をしているけれども、私達の思っていることに違いがありました。

こうした情報を伝えながら、会員の勧誘と言う事をしていかなければならない。実際ヨーロッパでこうした方法を用いて、会員活動をしておりますけれど、みなさんに覚えて頂きたいことは、女性と言うのは、男性と違う目的意識をもって入会しているということです。

本当に、今日はディスカッションから、ご意見を頂くことを非常に楽しみにしています。

そして、ヨーロッパや国際レベルのリーダーシップなどで、シェアしていきたいと思います。ヨーロッパで女性会員が少ない理由の一つとして、『女性達がリーダーシップの役職を担っていない』ということです。

私達の地区では、２年か３年に一度は、女性ガバナーが誕生します。

今日、皆さんに成功するフォーラムにお祈りいたします。私にとって日本と言う国は、質が高いと言うイメージがあります。ここで話されることは、クオリティーが高いものと信じています。

日本ライオンズ　女性会員フォーラム
～これからのライオンズの活性化は私たち女性の手で～

333－C 地区第１副地区ガバナー　実行委員長　L 長澤　千鶴子

L 長澤　千鶴子

2011年10月１日（土）、浦安市のホテル「ヒルトン東京ベイ」に於いて、アメリカからソニア・プーリー、 アイスランドからグッドラン・イングバドター２人の女性国際理事とＬ高田順一国際理事、Ｌ後藤隆一元国際理事をお迎えして、日本ライオンズ女性会員フォーラムを開催致しました。

「これからのライオンズの活性化は私達女性の手で」をテーマに国内25地区より沢山の方々のご参加を頂きましたこと、そしてホスト地区を受けて下さった地区ガバナーＬ金井一夫に心より感謝申し上げます。

女性会員数を世界レベルに、そして次世代への継承を意識しての若手会員増強と題して23テーブル226名の討論が始まった会場内は熱気にあふれ、約５時間に渡る討論の結果を発表して頂き、参加して頂いた皆様からのライオンズクラブの未来を見据えた素晴らしい意見に会場は大いに盛り上がりました。

これを機に女性会員増強、若手会員増強に結び付けばと思っております。そして更に良かった事は、今回のフォーラムの事が二人の女性国際理事のご参加によって、国際本部に届けられる事になり、ご参加頂いた方の熱い思い、ハートが伝わった事だと思います。

ホスト地区としての責任の重大さ、実行委員長としての緊張感や不安、様々な気持ちで当日を迎えましたが、大きなミスもなく終わりを迎えられた事に、ほっとしたと同時に充実感が込み上げ、そしてフォーラムを成功に導いた、仲間たち、国際協会女性ワークショップ参加者一同の女性フォーラム発起人（代表：Ｌ河合悦子【2010-2011年度330－Ａ地区ガバナー】）となったメンバーや、ホストとなった333－Ｃ地区のメンバー達への感謝の気持ちでいっぱいです。

次の開催地福岡に向けて尚一層の努力をしていく所存でございます。福岡でお会いいたしましょう、お待ちしています。

全国から選ばれしなでしこ達。発起人メンバー

「日本ライオンズ女性会員フォーラム」に参加して

地区女性会員増強委員長　L豊岡　悦峰

10月1日(土) 浦安のホテル「ヒルトン東京ベイ」に於いて、第一回「日本ライオンズ女性会員フォーラム」が国際理事ご出席のもと、全国各地より220余名のライオンが集まり開催されました。

この女性フォーラムは「女性や若手の会員増強」について考える為に、国際協会の主催で、昨年11月に「日本女性会員ワークショップ」が開催され、そのとき地区から選ばれた13名のライオンが今回の実行委員会のメンバーです。その中で、当地区の第1副地区ガバナーL長澤千鶴子が、実行委員長として選出されました。

地区女性会員増強委員会としても、L豊岡と副委員長L安見一美が、お手伝いさせて頂きました。「女性会員と若手会員の増強を考える」をテーマに、グループごとに発表がありました。以下は発表された一部を紹介します。

L豊岡　悦峰

◆女性の、きめ細やかさ、やさしさ、温かさに満ちあふれたアクティビティができる。
◆会費の額を考慮する
◆友達、知人を積極的に例会に誘う
◆クラブの魅力を発揮し、楽しく実のある例会を開催
◆自分を磨き、憧れられる人となる事
◆古い体質を変え、若手の興味を高める組織づくり

総　評

元国際理事　L 後藤　隆一

L 後藤　隆一

男性に魅力が無い…。

200名を越える女性陣の方が、全国からお集まりになった。

そして、女性会員増強を情熱持って、サポートしてくださる男性、お集まりになった皆様に感謝を申し上げ、敬意を表します。

今日は８複合全部の複合からお集まりになった。そして日本８複合35準地区があり、その内25の準地区からご出席を頂いているようです。

発起人となった、女性ワークショップの皆様方、主催地となった千葉県 333－Ｃ地区Ｌ金井一夫ガバナーを始め皆様方のご努力にも感謝を申し上げます。

この後この流れが、続いて行くのでありましょう。ご期待を申し上げます。

日本のライオンズの女性会員比率は、先ほど説明があった10.9％。昨日の集計９月末の集計では11,500を越え、11％をクリアーしました。少しづつですけれども増えてきています。これをいつ、どういうタイミングで 15％にしたり、20％にしたり、これもさっきのスライドの中にありましたけれど、世界水準23％にして欲しいですね。

そして同時に、女性ライオンズがリーダーの多くを占められる。つまり今11％であれば、3,300クラブの中で11％、340～350名の会長さんであったり、35の準地区があるその内10％、３人か４人が女性のガバナーが出る事になります。それで女性会員比率が上がっていき、増加させていく努力を私達、皆さんでやっていきたい。

世界23％同じ比率で、750人の地区ガバナーの内、毎年２割が女性でいらっしゃいます。そういうふうになっていくはずです。

でそれが何を意味するかと、これは各テーブルから発表にありましたね。どう言う事かというと、女性のまろやかさ、あるいは奉仕活動の中で女性の視点によって奉仕活動の輪が、広がる。質が上がる、つまりライオンズ活動奉仕の種類が広がって行くわけです。

そしてもう一つ、女性会員フォーラム、女性会員が中心になりますが、若手も、と言うこともありましたね。これも若い人達が増えることによって、その年齢層の若手の人の感性によって奉仕活動が、少し上の年齢層の人達と違う奉仕活動が出来てくるようになります。

ですから、ここで言う会員増強が重要。二宮さんのスライドにあった、35から50歳層の世界平均が40％、日本が20％、30歳代はきついかもですが、40歳代50歳代、男女関わらず増加して行く、この年代層は、クラブを越えたネットワーク、ネット、ソーシャルメディアを通してやっているわけですね。ライオンズの繋がり、ライオンズの奉仕活動にも繋がっている。こうしたところで先が広がっていくためには、どうしても女性皆さんの力を借りなければならない。

皆さん地元に帰られ、ライオンズの輪の中、仲間が、友達が言った事を持ち帰って地区なりクラブの中で有効に活用して、そして更に早く女性会員が増え、女性ガバナーがもっともっと増えて頂きたいなぁと、ご期待を申し上げ総評とします。

2010~2011年度 YCE派遣生報告

333－C地区 小さな国際親善大使

地区YCE委員長
L 山村 憲一

5回のオリエンテーションを終了し、YCE候補生から派遣生となり小さな国際親善大使達は、希望を抱きながら其々の訪問国に向けて出発していきました。最大の目的は、外国の同年輩の若者達と親しくすることで、友愛を育くみ国際感覚を養ってもらうことです。小さな国際親善大使達は、異なった文化やさまざまな背景をもつ家庭や社会での日常生活をいろいろと勉強してきたことでしょう。そしてお互いに理解を深められライオニズム精神を通して国同士仲良くし、より良い社会や平和を願う数々の貴重な体験は青春時代の良き想い出になったと思います。

この経験を将来には必ず役立ててくれることを願っております。

メキシコからの来日生を迎えて

7月16日成田国際空港にメキシコから16歳の少年が旅の疲れも見せずに明るく元気に姿を見せてくれました。名前はベト君、第一受入家庭は袖ヶ浦LCのL花澤宅で、そして第2受入家庭は茂原LCのL深山宅と御協力を頂きました。日本での滞在は29日間で、その間に333－C地区のYCEサマーキャンプがあり2泊3日で行い参加して頂きました。

日本での体験は、初めてのことばかりで戸惑う事も沢山あったと思いますが良い想い出となった事と思います。御協力を頂いた各LCの皆様方には大変有難う御座いました。

カリフォルニアの地にて

派遣生 鈴木 敬子
（行徳LC）

今夏、私はYCE派遣生としてアメリカ カリフォルニアに8月の期間約3週間の滞在をさせていただきました。8月7日~13日の期間ではWrighwoodにてLions Youth Camp。8月13日~27日の期間にはSacramentoにて各家庭へと預けられました。

キャンプでの生活は基本的に他国の人と交わることが主で、各食事や活動を通して、世界共通語である英語で会話をする。他国の人との会話が楽しめることが日本では経験し得ないことであるため、コミュニケーション能力の向上を仰ぐことができた。

一番勉強になったものはcultural sharingで自国の食文化などを発表するプログラムで、各国の特徴が良く出たものとなっていた。例えば、イタリアはシャツの色を左から緑、白、赤、と自国の国旗の色にして並び、日本は数人が浴衣を着て、折り鶴やお菓子を配った。

各家庭に預けられてからは基本的に家庭と接することが主で、私の家庭は私ともう一人の日本人を受け入れていてお父さんとお母さんの二人暮らしの家庭であった。私の家庭はお母さんはフィリピン人であるが、お父さんがアメリカ人のため会話は英語でしていた。

アメリカ文化を肌で感じたのは、まず始めに食文化である。大きなカップで出てくる炭酸、デザートにはピンクのケーキ。次に、内地サクラメントは平野で基本的に雨が降らず快晴であった。最後にみなさん集まることが大好きで各々料理を持ち寄り、ホームパーティを行うことがよくある。

ヨーロッパでは小学校から英語教育をしていると聞かされた事実と、高校生ですでに英語での会話を厭わないことによって、自分自身の怠惰さと日本の現状を思い知らされた。

これから、自分のやるべきことを臨んでいかねばならない。日常生活に使える英語力を持つことがこれから必要である。

日本のみならず世界に目を向ける好機を無駄にすることなく、世界に出来たつながりを自分自身の手で広げてゆきたい。

カナダ・ホームスティ報告

派遣生 井出 智子
（柏中央LC）

私は、夏期YCE派遣生として、一カ月カナダに派遣させていただきま

した。

私が、ホームステイをしていた場所は、サスカチュワン州という所でとても自然が豊かでした。私は、始めの二週間を、日本人のお母さんがいる家庭で過ごしました。ホームステイは初めてだったのですが、すぐに打ち解ける事ができました。特に年下の二人のホストシスターとは毎朝ジョギングをしたり、遊んだりとても楽しい時間を過ごしました。ホストファミリーは農家だったので、ジャムを作ったり、鶏にエサをあげたりしました。また、村にはライオンズクラブがあり、例会に参加させていただきました。ライオンズクラブの方々と日本の事や日本とカナダの違いについて話しました。お茶を飲んだりしながらとても和やかな雰囲気でした。

そして、次の二週間をカナダ人の家庭で過ごしました。第二ホストファミリーは大きな家族ではじめは慣れるのが大変でした。でも、ダンスパーティーに行ったり、湖に遊びに行ったり、親戚にあかちゃんが産まれたりと忙しかったので、いつの間にか家族の生活になれていました。家族が多いのでみんなで協力することが多く、私も小さい子の面倒を見たりしていました。同世代の子といろいろなことを話したりもしました。カナダを離れるときは、この素晴らしかったカナダでの生活が終わってしまうことが信じられませんでした。

私は、今回カナダに行ってなんでも体験してみることが大切だと感じました。自分で体験してみることで感じられることは、ただ見ているだけよりもはるかに多いと思います。そして、自分が話しかければ相手も話しかけてくれ、積極的に話すことは親しくなるためには欠かせないと思いました。

どちらの家庭も私を、家族のように受け入れてくれてとても嬉しかったです。ホームステイだからこそ経験できたことが沢山あり、素晴らしい機会を与えてくださったライオンズクラブの方々に感謝いたします。ありがとうございました。

マレーシア・ホームスティ報告

派遣生　後藤　有里
（船橋ＬＣ）

私は、二週間という短い期間でありながら、アロースターという水田が有名な街に1週間、現地のキャンプのためペナンに3日間、ランカウイに四日間と、全く違った魅力あふれる街に滞在することができました。

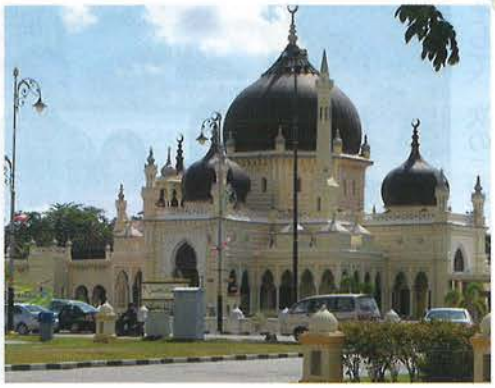
チャイニーズ、マレー、インディアンの三つの民族から成っているマレーシアは、キリスト教、イスラム教、仏教など多宗教国家でもあり、街中にモスクや教会、寺院がありました。日本ではあまり見られない光景に驚きました。私のホストファミリーはチャイニーズだったのですが、日常会話にはマレー語を使用していました。しかし英語もとても上手で、ほとんどのチャイニーズは、中国語、英語、マレー語、マザータングの四つの言語を同じように話せると聞き、驚きました。日本でも現在英語は小学校から習いますが、日本語と同じように話せる人は稀です。

また、私は今回六つの博物館に連れて行って頂きました。多民族国家ゆえの民族間での文化と慣習の違いや、歴史、歴代の首相について学びました。特に印象深かったのが、22年間首相を務めた第四代Dr.モハマド首相に対する国民からの尊敬でした。マレーシアには首相に関する博物館がたくさんあるそうです。短期間で首相が替わり、国民からの関心が薄い日本とは大いに異なる点だと思いました。

キャンプでは、現地のライオンズやレオの方々がとても親切で、たくさんの友達ができました。両国の文化の紹介をしたり、様々な寺院を巡ったりと、とても楽しかったです。

ランカウイは、とても美しい島でした。気候が異なるため、日本では見たことのない動植物に出会うことができました。空港の管制塔の中も見せてもらい、とても貴重な体験ができました。

このほかにも、孤児院を訪問して日本語を教えたり、現地の子供たちと折り紙を楽しんだり、教育制度の違いについて話し、両国の問題について考え



たりと、とても学んだことが多く、内容の濃い二週間でした。

私の夏休み in USA

派遣生　林　百華
（市原コスモスLC）

私は、7月24日から8月28日まで、アメリカのカリフォルニアに行かせて頂きました。出発の日は不安はあまりなく、期待で胸が一杯でした。私の場合は2軒目のホストファミリーの情報がなかったので、その点もとても楽しみでした。

私の一家庭目は、お父さんとお母さんの二人暮らしで犬と猫を一匹ずつ飼っていました。私はオリエンテーションの時から知り合いだった子と一緒にホームステイだったので、とても気楽でした。ただ一家庭目で自分が考えているよりも緊張していたのか、今思うと会話が少なかったように感じます。とてももったいないことだと思いました。

キャンプには世界中からYCE生が来ていて、その中でも日本人の数が一番多かったです。日本人だけのキャビンが男女会わせて三つもありました。グループがあって、その団体ごとに午前中は運動などをし、午後は毎日プールに入りました。様々な国の人と自分の国について話しをするのはとても楽しかったですが、私はこのキャンプに来たばかりの日は1家庭目に戻りたいと考えていましたが、最終日にはこのキャンプが永遠に続いて欲しいと考えていました。

二家庭目は、お母さん一人で、仕事があるのでもう1件ホスト家庭があって時々泊まりに行きました。今回は私一人でした。一人といっても、行動の予定はある程度あって、ほとんど内容が日本人のリーダーと一緒でした。一家庭目の時よりリラックスして家庭と接することができたので、より自分の家として感じました。帰りの空港では涙が止まりませんでした。

私はこの五週間で、ひと夏というには多すぎるほどの思い出を作りました。そして多くの友人と家庭を持つことができました。

ライオンズクラブの皆様、本当にありがとうございました。

オーストラリア留学報告

派遣生　日沼　歩
（佐倉中央LC）

私は、8月1日から24日まで、二軒のホストファミリーにお世話になりました。けれども、二軒目があることを聞いてなく、移動する前日の夜に教えられました。とても驚いたし一家族分のお土産しかなかったので凄く困りました。一軒目の家族は四人家族で私と同年代の女の子が二人いてとても話が合いました。だけど私の英語では伝わりづらい部分もたくさんあって、特に発音が気になりました。私が一番嬉しかった事は学校に行けた事です。

高校で四日間授業を受けさせてもらい、小学校では日本語の授業のお手伝いで一日ですが先生のサポートをさせてもらいました。みんな気さくに声をかけてくれてとても優しくしてくれました。私が日本語を教えたらすれ違うたびに「コンニチワ」と言ってくれました。オーストラリアの人達はとても日本に興味を持っていて、とても友好的だった事が感動です。

二軒目のホストファミリーは老夫婦の方の家に和歌山から参加した子と二人でのホームステイでした。お孫さんがたくさんいてみんなで牧場内をバイクに乗ったりしました。畜産をしていて広大な土地に牛や豚がたくさんいました。私もそのお手伝いをして命の尊さを学びました。野生のカンガルーを見たり、日本とは違う壮大な風景に驚

くばかりです。
長い間一緒にいたので別れの時はとても悲しかったです。最後の三日間はライオンズの留学生全員でシドニー観光をしました。大学生の人達に受験の話や大学生活、仕事の話を聞きとても参考になりました。この留学で文化の違いや、日本とは違う習慣などを感じられてとても良かったです。私が伝えた事で会った人達が今まで以上に日本に興味を抱いてくれたら嬉しいです。私はもっと英語が喋れるようになりたい、努力しなきゃいけないと思いました。
最後に出発までお世話して頂いたライオンズの方達に感謝しています。いろいろありがとうございました。

2011年夏 YCE派遣生報告

派遣生　橋岡　史江
（佐倉むらさきLC）
受け入れクラブ
HASTINGS LC
GORE HOKONUI LC

私は、YCE派遣生として8月4日から27日まで、ニュージーランドに行かせていただきました。

最初の一週間は、北島のネイピアの空港から車で20分ほどの所にあるヘイスティングスで過ごしました。同級の名古屋の子と、一緒にホームステイをしました。一週間はライオンズクラブの方が、毎日たくさんのプランを計画して下さり、いろいろな所に連れって行って下さいました。ヘイスティングスの市長さんに、お会いした事が一番印象に残っています。また、毎朝ホストファミリーと、お散歩に行ったことも思い出です。最終日は派遣生8人でお世話になったライオンズの皆さんに日本料理を作り、大変喜んで頂きました。
最後の二週間は、南島の一番南にあるインバーカーギルの空港から車で1時間ほどの所にあるゴアで過ごしました。着いた日は雹が降っていてとっても寒くびっくりしました。ゴアでは高校に、通わせていただきました。連れて行っていただいたクィンズタウーンでは、ゴンドラから絵に描いたような素晴らしい景色を見ました。ツチボタル洞窟に、ボートに乗って入ったティアナも自然の素晴らしさを改めて実感させられた場所の1つです。
ホストファミリーは、2軒とも本当に優しく大切にして下さって幸せでした。また、お見送りやお迎えをして下さった日本のライオンズの方、今回飛行機を八回乗りましたが、どの空港でもライオンズの方が待っていて下さってとても感謝しています。
ニュージーランドに派遣させていただいて、英語はもちろんのことたくさんのことを勉強し、今まで自分の知らなかったことも毎日のように発見しました。日本の素晴らしさも再認識しました。世界を視野に入れた価値観を得ることが出来、またもっと広げたいと思うようになりました。約一ヵ月とても充実していて、最高に楽しかったです。皆さん本当にありがとうございました。

2011年夏 YCE派遣生報告 一期一会

派遣生　伊藤　桃子
（八日市場LC）

アメリカでのホームステイ、とても短く充実した毎日を過ごしてきました。私は、日常会話の中でも疑問に思ったことは少しでも聞くようにしました。私は本当に留学できることを楽しみにしていました。ライオンズクラブのYCE派遣生としてアメリカに行くことができたこと、これは私の誇りです。
実際に行ってみて戸惑ったことや、発見がたくさんあります。想像と全く違ったこともありましたが、そのような違いに気づくことができ、たくさん学ばせて頂けたと感じています。
（例えば…
真実と素直さ
YES・NOをはっきりさせ、あい

まいな態度は伝わりません。理由の根拠を聞いたり、結論や決断を求めたりしますが、これは私に敵意があったり不満があるわけではないということ

ありがとうとサンキューの違い

ありがとうは、漢字に変換すると、ありがとう→めったにないこと→貴重→感謝 という。有難うという漢字からもわかるように、有ることが難しいという意味合いが強いのに対して、Thank youにはそういった意味は含まれていないので、会話の節々でこのフレーズを耳にし、こういうところでもお礼を言うんだと驚いたこと。)

そして以前よりさらに、国際交流や異文化とは何か？ ということへの関心が深まりました。ライオンズクラブのモットーである、We Serve、みんなが力を合わせ助け合うという思いやりの気持ちをもって、これから世界と日本をつなぐ架け橋の一部になれるよう活躍していきたいです。私とライオンズクラブの方やホストファミリーのように、このプロジェクトを通さなきゃ出会えなかった人とのつながりを、これからも大切にしていきます。私を快く送り出してくれた家族への気持ちも忘れずにしていきたいです。今は今しかない、この今を後悔しないよう、これからの大学生活や様々な活動に生かしていきます。

本当に貴重な体験をさせていただき、感謝しています。ありがとうございました。

メキシコ・ホームステイ報告

派遣生　篠塚　紗也香
（大栄LC）

私は、7月21日に成田空港で家族や増田ライオンに見送られ、8月21日までの1ヶ月間、メキシコにホームステイに行かせていただきました。

初めての海外旅行、初めての飛行機の乗り換え…。出発前、初めてのことばかりなのに、全部一人でやらなければいけないという不安に、押しつぶされそうだったこと今でも覚えています。たくさんの不安の中で始まったホームステイでしたが、メキシコで過ごした1ヶ月は、毎日がとても濃く、刺激的で、とても楽しい日々でした。

メキシコでは、5つの家庭をまわらせていただきました。

メキシコでできた私のBEST FRIEND。それは2番目に、ホームステイさせていただいた家の女の子、ルーシーです。ルーシーは私より2歳年下ですが、とても大人っぽく、いつも私と話しをしてくれました。とてもおちゃめで、すごく優しくて、いつもルーシーに助けられました。お互いいつも英語を話しているわけではないので、たまにかみ合わないときがありましたが、私はルーシーと過ごす時間が大好きでした。一緒に話をしたり遊んだり、ルーシーと過ごした時間は大切な思い出です。

一番思い出に残っているのは、メキシコの高校に行ったことです。日本の学校とは違い、朝早く始まりお昼過ぎぐらいに終わります。一緒に授業を受けさせてもらいましたが、日本とは違った、授業風景にびっくりしました。でも、数学の授業のとき、日本の高校生と同じことを学んでいることがわかったとき、なんだか嬉しくなりました。色々な人と触れ合うことができて楽しかったです。

私にはメキシコに5つの家族があります。一緒にピザを作ったり、アイススケートに挑戦したり、動物園やショッピングモール、市場など沢山の場所に連れてもらったり、どの家族も本当に優しくして下さいました。

めったにないホームステイを体験することができ、本当にうれしく思います。そしてこの機会を与えてくださった、ライオンズクラブの方々にとても感謝しています。この体験を、これからの生活に生かしていきたいと思います。

カリフォルニア報告

派遣生　石井　亜実
（木更津LC）

私は、7月24日から8月28日までの5週間カリフォルニア州にいきました。

空港に着いたとき、明るく陽気なライオンズの皆さんが笑顔で迎えに来て下さっていて、とても安心しました。私を歓迎してくださったのは、第一ホストファミリーのRanneyさんでした。アメリカについて、初めて食べさせて頂いたものが、ハンバーガーでした。ハンバーガーは、とても大きく、アメリカの食文化を象徴できるものであると実感しました。

Ranneyさんとは、教会に行ったり、ライオンズクラブの活動に参加したり、ラスベガス、サンディエゴなどに連れて頂きました。〝ライオンズの活動〟というのは、GRAND TERRACE LIONSというクラブへ行き、無料で視力を検査し、個人にあった眼鏡を差し上げる。という活動でした。とても多くの方が来ており、規模の大きさに驚きました。お手伝いをしているとき多くの方とお話をし、大震災について励ましのお言葉を頂けてとても感謝しております。

Ranneyさんと過ごす二週間は本当にあっという間に過ぎ、一週間のキャンプがスタートしました。キャンプでは、世界各国の派遣生が集まり、スポーツや国の紹介などをしたため、たくさんの国の方と仲良くなることが出来ました。

もっと一緒に過ごしたかったです。キャンプ場からバスで9時間ほど移動し、第二ホストファミリーのVentureさんとお会いしました。

Ventureさんも、とても明るく出迎えてくれ、とても安心しました。Ventureさんとは、タホという湖やゴールデンゲートブリッジ、世界遺産のヨセミテ国立公園に行きました。

ヨセミテ国立公園では、カリフォルニアの大自然を体験することができました。この夏休みにアメリカに行くことが出来たことで、世界の皆さんが大震災の事を気にしてくれ、日本は支えられていると実感できました。

今回のホームステイで、アメリカの生活文化・食文化など英語以外にも学ぶものがたくさんありました。

とても良い体験になりました。もっと英語を話せるようになったら、また海外へ行きたいと思いました。

このような素晴らしい機会を与えてくださり、ありがとうございました。

マレーシア・ホームスティ報告

派遣生　前嶋　まりあ
（千葉九十九里ひまわりLC）

私は、約一ヶ月間マレーシアにホームステイさせて頂きました。

今では、このような素晴らしい機会を与えてくださった、ライオンズの皆様に大変感謝しています。

私の旅の記録では、マレーシアの国のことはもちろん、日本と比較することにより日本での普段の自分を改めて見つめ直すことができました。なぜなら同じアジア内でも、文化や生活、食べ物がこんなにも違うということを学べたからです。

マレーシアという国は、多様文化であり、インド、マレー、中国系の3つの人にわかれ、それぞれが同じところに違う文化で、暮らしているのです。

私のホームステイ先は、中国系なので主な食事は中華でした。でもインド人のカレー味も多く口にしました。マレー人の食事は初めてのものが多くありましたが、辛いものに甘い飲み物や甘いデザート、そして、文化の違いで豚肉を食べられないのがマレー人です。そのためなのかマレーシアでは、何処に行ってもチキンは必ずのように口にしました。

他には、南国の果物がたくさんありました。初めて食べたものがほとんどでしたが、中でもマレーシアで有名だったのがドリアンです。ドリアンはとても臭うと聞いていましたが、実際挑戦してみると本当に臭かったんです。あれはもう食べられません！(笑)

あとは民族衣装が印象に残っています。外見でそれぞれ見分けられるようになっていました。

私が訪れた所は、南の方で首都KLを中心に、二時間かかるRaubという村にホームステイしました。そして私は、冬に日本で受け入れた子の家に約一ヶ月間特別ホームステイさせていただきました。

このような交流はめったにできないことだし、とても大切に思いたいと思います。そのためでもあり、すぐにその家族には慣れることができ、私もその家族の一員になれていたなら幸せなことと思います。

私と同い年のJaneとは、毎日のように楽しくやっていました。Janeの学校

にも、たくさん通ったため、学校でも温かく迎えられ、楽しい友達もたくさんできました。そのお友達からは中国語を教えてもらったり、私が逆に日本語を教えたりと勉強になりました。

そしてJaneの両親には大変感謝しなければなりません。学校に行かない日は車を出してくれて私のために、遠くのいろいろな場所に連れて行ってくれました。

マレーシアは熱帯雨林なため緑が多く、山の上に観光地がある場所によく行きました。

そこはとても空気が気持ちよく涼しくて、お花もたくさんあり、建物も昔の歴史からそのままにしてある洋風なものもあり、私は気に入りました。

中でも最終日頃に訪れたMallakは歴史的にも、有名な場所らしく観光者で溢れていました。そして私もそこが大好きになりました。

有名な美味しい食べ物が揃うお店もたくさんあり、可愛い洋服屋さんやお土産屋さんなどが、数多くあるので買い物するにも観光するにも、最適な所だと思いました。

またマレーシアに行ける機会があれば、もう一度そこに行きたいです！食べ物、観光、植物の他にも野生動物も、多く見て触れることができ嬉しかったです。

Janeと同じくらいにも仲が良くEeleenという子も、前に日本に来ていてその子は日本語も上手で、毎日のように助けてもらっていました。Eeleenのご家族や、そのまたお友達のご家族もとても優しく、いろいろとお世話になったため、とても感謝の気持ちでいっぱいです。

最後に、日本だけでとどまるのではなく、日本人としての観点から他の国を少しでも、知ること、見ること、触れることができ光栄に思っています。

日本人は苦手とする英会話も世界にでると、共通語になるということを忘れてはならないと思いました。だからこれから先も私は英語をもっともっと、身につけ大事にしていきたいと思いました。

そして中国語もいつかはできたらと思います。そうしたらマレーシアのお友達とも、もっともっと楽しく会話ができるでしょう。そのような目標をもって、これから先いろんな世界を見ていきたいと思います。

XieXie…

2010~2011年度 夏期来日生受入報告

Felipe Alberto Campos Caldera

国：メキシコ　16歳学生

両国のための、400年の友情は簡単には忘れられません。それは困難な時に双方の国民がいつも友好的にお互いに愛し合い結束することに反映されます。というのが日本での経験からの印象です。ただ遠い国を訪れ、おもてなしを受けたことだけでなく、そのことは素晴らしい国から学び、貴重な宝の思い出になりました。

到着に、太陽を反射する大きな川を見ることが出来ました。その後、空港で私が寂しい思いをすることなく受け入れてくれることになった家族の訪問に魅了されました。

正直、その方々とは以前から付き合いがあったように感じました。こうして沢山の期待に、私の旅が始まりました。夢と願望、願望はますます大きくなり、いつの日か、私の魂は最初にこの地を踏んだ時と同じ微笑みを持って戻っていきたい。

ここに着くと、全てが新鮮で想像していたことと全てが違っていた。みんなが他の人のために力を出して働く、それは私たちも良く覚えているが、この国は困難な状況にあり、そして今、印象的な速さで立ち上がりました。何かがハッキリと見えれば人々は常に前進します。短い滞在でしたが、簡潔に、私の考えは全てここに述べました。

締めくくりにあたり、日本人のおもてなしに、最大の感謝を申し上げ、暖かい態度と相互の友情で手を差し伸べ、握り合う最高の方法での機会でした。どんなに遠く離れていても、私の心は日本に残してきた心の一部と繋がっています。

L 花澤 満雄

袖ケ浦ライオンズクラブ

YCE生を迎えるのは、今回で8回目になります。

今年はメキシコから、ベト君16才の学生です。子供たちとも直ぐに馴れて気の付く明るい学生でした。

「はとバス」は、大変喜んでくれました。日本の文化、皇居は趣味深く観察しておりました。

成田山参拝も釣り鐘が突きたかったようでしたが、時間で鳴らすため無理との事で残念そうでした。

富士山も喜んでいました。L前田代の運転で箱根十国峠、富士五湖五合目までたどり着いたのですが、霧が深く残念な事に頂上を見る事が出来ませんでした。

ライオンズの森の清掃には、早朝7時からライオンズクラブの皆さんと、頑張って草刈りを手伝いました。また、近くの大多喜城見学に、ライオンズクラブの皆さんと出かけました。

そこの近くに「炉端焼き童子」と言うお店があり、メキシコから嫁さんに来ている方がいて話が弾み楽しいひとときを過ごしました。

若いベト君です。必ずまた、日本に来るからと真剣な顔をして明るく話して空港を後にしました。

L 深山 和夫
茂原ライオンズクラブ

これ迄、私の家には4回程2名ずつ、冬期YCE生を受け入れてまいりましたが、今回は一人メキシコのFelipe（ヒルプ）Alberto（アルベルト）Campos（カンポス）Caldera（カルデラ）さん、高校2年生の受入れを致しました。

大変長いネームでありますが、父母の名を取り祖父母の名を取って自分の名前を作るそうです。

父母は大学の教授をしていると伺っておりますが、母がライオンズクラブの会員として地区で活躍されているそうです。

家庭環境の恵まれた少年で、ホームステイは、初めてのことで大変喜んで生活して過ごされました。

私が、引き受けたのは7月31日～8月13日迄で、私の前には、袖ヶ浦のL花澤満雄の家庭にホームステイをされておりました。YCE生が日本文化を知り、国を理解することは、これからの日本が今後世界貢献するにしても、若人の理解と協力が重要と、私はその様な想いで接してまいりました。

又7月29日～30日は、一宮町の一宮館でキャビネットのサマーキャンプに参加し花火大会・地引網・カラオケ大会など楽しい日々を過ごされました。

私は、前任者のL花澤満雄と案内が重複しないよう伺った処、富士山や東京の「はとバス」、房総周辺は見学されたとのことでありましたが、富士山に行った時は霞がかかっており、よく見えなかったのでもう一度行ってみたいとのことでしたので、私は案内致しましたが、その時も、山の天候が悪くなり前より見る事が出来なく寂しい思いをしたようです。

帰りに東京の秋葉原電気街に寄りたいとの事でした。私は秋葉原電気街をどうして知っているのか尋ねた処、先輩に聞いたそうですが、その時、秋葉原の電気街の商魂の逞しさに感銘を受けました。

大多喜町に「童子」と言う料理店の渡辺様の奥方がメキシコの方で、スペイン語を毎週御宿町の公民館で教えており、御宿とメキシコは姉妹都市を結んでおり、大統領の来日など、深交な交流があり町民のスペイン語の熱意はなかなかなものです。20名程の方が学ばれており、勉強中の教室に招かれ一緒にスペイン語を教える機会を得て喜ばれた一日を過ごされました。

又、東京にもう一度行ってみたいとの事でしたので、若い学生に案内をして頂き六本木や原宿など若者が喜ぶ処に行き、東京の魅力と感動を受けたそうです。更に自分一人で東京のマップを持って散策したいと申し出がありYCEの役員に問い合わせた処、一人は遠慮願いたいとの事でしたので、付添をお願いし日本の主都を充分堪能され、夜遅く帰られました。又、電車に乗るのは生まれて初めてとの事で感慨深い思いであった事と推察致します。

翌日には、東京ディズニーランド等も見学されわずかな期間でありましたが日本の生活体験を通して文化を学び、今後の両国の交流の一助となって活躍されることを期待したいと存じます。

日本にいる間、キャビネットの方々始めゾーンYCE役員の皆様に感謝し、無事13日に帰国の途につきました。

「女性支援対策本部報告」

文・女性支援対策本部長・第1副地区ガバナー　L長澤千鶴子

【3月報告】

この度の東日本大震災に於いて、被害に遭われた皆さまに心よりお見舞い申し上げます。そして一日も早い復興を祈念致しております。

震災後、各地より支援物資が送付される中、柏なの花ライオンズクラブへ女性用品の物資要請が有り、3月18日第1便を送付させて頂きました。

これを受け、女性として出来る支援の輪を、千葉県内10の女性クラブを招集し、3月28日「女性支援対策本部」を立ち上げました。

毎月、要請に応じ、物資その他支援を長期に計画していく予定でおります。

２０１１年4月現在、下記物資を約１５０万円分送付させて頂きました。

福島県猪苗代……女性下着・紙おむつ。

岩手県釜石市……女性下着・紙おむつ・お尻拭き・粉ミルク・女性衛生用品・野菜・海苔。

岩手県東磐井郡…粉ミルク。

右記、御報告申し上げます。

皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

【4月報告】

4月10日(日)３３３－Ｃ地区・L金井一夫第1副地区ガバナーと共に9名で岩手県釜石ライオンズクラブに支援物資を搬入し、避難所被災者だけでは無い各戸へ直接物資をお届けして頂きました。

３３３－Ｃ地区ホームページ「東日本太平洋沖大地震・ＡＬＥＲＴメッセージ」にお知らせを頂いている、大網白里ライオンズクラブＬ角河博文の度々の釜石支援便で「就職内定取り消し者の相談会」が実現した。

大災害で就職先が被災し、又は自宅が被災し、就職や進学の道の変更を余儀なくされた新卒相談者は10名。釜石市には正規採用が殆んど無く相談の中では千葉・東京近郊の就職も可能な方もいて、次は千葉県へ招待し企業への相談窓口を開く事を約束した。

【5月報告】

5月9日(月)前回お約束

した千葉県へのお招き「就職支援相談会」に向け相談者をお迎えにL角河博文に10度目の釜石入りをして頂きました。

支援物資が少し落ち着き、今は仮設住宅用の布団・電化製品等の要請も有りますが、地域行政で準備されている地区も有るようです。

対策本部として5月は、就職支援の対応を致させて頂きます。

相談者の予定は下記の通りです。

10日19時・アパホテル東京ベイ幕張・到着。
11日13時～16時・採用企業による面接会。
12日10時～19時・企業職場見学及び面接会。
13日10時～21時・東京ディズニーランド・
昼食激励会。

参加者は9名で、釜石ライオンズクラブより、元地区ガバナーL種市一二・元地区幹事L大和田助康・事務局野田春美さんがご同行頂きました。

既に女性2名の採用が決定しており、11日は8社の採用企業による面接が行われ女性参加者7名全員が採用となり、今現在女性9名の就職が決まりました。(今回参加9名中、男性2名は地元での企業再開時就職予定)

採用企業は、全てライオンズメンバーで、今回の就職相談では採用を前提に前向きに検討して頂き、「支援相談会」の使命を果たせたと深く感謝しています。

釜石での面接相談後、被災に遭われ就職先の取り消し等で、かなりのストレスを抱えている現状から、少しでも心のケアーが出来ればと、千葉県にお呼びし楽しむ時間も計画致しました。

東京ディズニーランドでは、元地区ガバナーL内田千尋より、御協力を頂き感謝申し上げます。

会員制クラブレストラン「クラブ33」で豪華な昼食を頂き、いつも賑やかな女子組も、ビップなご招待に感激の様でした。

2011年5月12日　NHK総合テレビにて放映　被災者の立場に立った就職支援

そして釜石では、この活動を機に県の取り組みとして、他県への就職支援活動が始まったとお聞きしました。帰郷後、岩手日報にもご報告頂き紙面に掲載をして頂くようです。

又、4月10日に釜石で行われた「就職支援相談会」に共感したNHKより二日間にわたり密着取材を受け、12日の夜の番組で放送となりました。

今回の就職支援に関して、多くの皆様方のご協力とご支援を頂きました事に改めて御礼申し上げます。

【6月報告】

今期で任期を終える会長へ、活動報告と今後について、ホテルグリーンタワー千葉にご参集頂いた。

今後は支援物資及び就職相談を、状況を見ながら検討していく事とした。

又、今後も「女性支援対策本部」は3月に立ち上げた本部長と会長のメンバーのまま活動して頂くようにお願いをしました。

東日本大震災支援活動掲示板

地区ホームページに掲載中！
「ALERT メッセージ掲示版」を大震災が起きた日からスタート
情報の共有化を図ってまいりました。
掲載日順に、284 件の書き込みの内、途中からご紹介！

東日本大震災・暖かい御支援に感謝

前地区ガバナー　L竹下徳永

この度の、未曾有の大震災で被災した方々に心よりお見舞いを申し上げ、一日も早い復興を願っています。

震災の規模があまりにも大きく、当３３３－Ｃ地区も被災し自然の恐怖を身近に感じ、私も被災された旭市に、後片付けに駆けつけました。

３３３－Ｃ地区は、「東日本大震災・災害支援対策センター」を立ち上げ、会員一同から御支援を頂き、約二千万円を活用させて頂きました。その内訳は、３３２複合地区と、３３３－Ｃ地区内に振り分けました。災害の規模からすれば、微力なものですが、会員一同の気持ちとして支援させて頂きました。

３３３－Ａ地区（新潟県）から被災見舞いに来葉、また、台湾３００－Ｂ１地区から当地区へ震災見舞いに来日され、来日に関しては、Ｌ岡野正義元地区ガバナーが地区ガバナー在任当時、台湾で大地震があり、台北県ＬＣを通じて３００－Ｂ１地区に対しお見舞金を持参し贈呈した経緯があります。こうした支援からの交流はライオンズならではの支援です。災害への支援は迅速な対応が必要とされます。ライオンズクラブ国際財団（ＬＣＩＦ）の日本地区へ多額な支援が、いち早く行われたことなど、ライオニズムが発揮されました。

ここに会員一同からの心温まるご支援に、感謝を申し上げます。

東日本大震災避難者を招待

投稿者：小林信也
投稿日：2011/10/06

「ＮＴＴ柏豊四季社宅入居者夕食会」

本年度、柏ライオンズクラブの事業の一環として、東日本大震災で福島県などから柏市に避難して来られた方々を元気づけようと、当クラブのメンバーであります、三井ガーデンホテル柏様、ニッカウヰスキー柏工場様の協賛を頂戴し、和やかな雰囲気の中夕食会を行う事が出来ました。

当日、柏市長秋山浩保様、柏商工会議所会頭寺嶋哲生様に、ご列席いただきました。

夕食会へは52名の入居者の方がお見えになり、限られた時間ではございましたが、素敵なホテルの料理でおもてなしする事が出来ました。ただお聞きすると、慣れない土地でご苦労されている部分もあるようです。

家族、家、仕事を失ってはいない私たちは、被害にあわれた方々の悲惨な現実を乗り越え、断絶された日常を取り戻す、できる限りの支援をしていきたいと思っております。

そして会の終わりには、代表の方々数名より感謝の辞をいただきましたが、その中で「是非また機会があればお願いしたい」と言う声が沢山ございました。復興への道のりは長期に亘ります。

最後に、柏ライオンズクラブとして、今後も可能な限り、身近なところからの支援ができればと考えておりますので、皆様のご協力をお願い申し上げます。

意外な支援

投稿者：角河博文
投稿日：2011/09/07

元メンバーで元町長から東北支援をしたいから相談したいとＴＥＬがあり、早速出かけたら３０００坪の畑を東北の被災者に貸与したい是非そんな農家の希望者を捜して下さいとのことでした。

原発の被災地に案内しようとしていますが、畑をやりたいが避難していて困っている方ご存じありませんか？

是非ご連絡下さい。現在福島県富岡町に問い合わせ中です。

誠意のある義援金

投稿者：角河博文
投稿日：2011/09/07

９月第一例会にバレー教室の先生とスタッフ2名が義援金を持参して頂きました。

東北支援を是非と5月にバレー発表会に募金活動をされて大網白里ＬＣに全部お持ち頂いたのですが、第2弾があり皆ビックリ、ライオンメンバーも半年前の出来事と横に忘れ去られようとしている際の事で再認識させられました。

東北支援！まだまだ！頑張りましょう。

Ｌ角河さん・第21便

投稿者：船橋ＬＣ　Ｌ木全
投稿日：2011/08/05

８月2日夜に出発の第21便に同行させて頂きました。

船橋中央ＬＣ・元地区ガバナーのＬ林静誠さんより頂いた医療機器（エコー機）を現地へ届けました。

他にお米やジーンズ、自転車など。また大槌高校で就職活動中の生徒約50名の前で就職セミナーを実施。

２時間の中でＬ角河さん、上総一宮ＬＣ・Ｌ中川さんが熱弁。

就職支援の生徒１名を連れて帰路へ。

ライオンボックス

投稿者：船橋ＬＣ　Ｌ木全
投稿日：2011/06/17

南相馬市・原町ＬＣへの物資支援後、原町ＬＣより市内の知的障がい児施設「原町学園」から、千葉県鴨川青

年の家に避難していると聞きました。スニーカー、サンダル、Tシャツ、靴下、帽子等、これからの夏服が必要ということで、約30人分の物資をメンバー有志によるドネーションで集め、届けました。

船橋LCメンバーL松本の案により親しみやすいようにと「ライオンボックス」と名付けお粗末ながら段ボールにライオンズロゴを貼りました。

届けた翌日、ニュースで鴨川青年の家が取り上げられていました。知的障害者の苦痛やストレスは周囲には気付きにくいというものでした。

継続的に児童の手書きでニーズ情報を頂いていますが、可能な限り対応したいと思います。

たんぽぽ支部　第一回奉仕事業報告
東日本災害支援の為、今出来ること！
投稿者：野田LC
投稿日：2011/06/16

今回は、ライオンネットで何度か支援物資を搬入している岩手県大槌町では夏物衣料、雨季に向かい傘も、子ども用スニーカー、サンダル等、それに中古洗濯機、中古冷蔵庫、不足しているとの情報で、支部会員が友人知人に声をかけて集めました。

冷蔵庫3台、洗濯機4台、子ども用衣類、新品Tシャツ、新品婦人物スカート、ズボン等など、L栗原が提供してくれた2tトラックに満杯に積み込みました。

積み込みには、L吉岡、L山崎、L大西、タンポポ会員のL須賀、L横川、L間中が自宅にて参加。

9時40分にスタートしましたが、途中ロープが緩み締め直しとかで遅れ気味に、又、岩手手前でパンクに、大槌町に大幅に遅れて到着。

朝8時に近所の方々の応援で荷下ろし、手際よく仕分けて必要な所にすぐ渡しました。

皆さんのお陰で被災地の皆さんが本当に喜んでくれました。ありがとう御座いました、次回も是非おねがいします。

332－C地区ガバナーから
投稿者：千葉ゆうきのLC
L橋爪雅子
投稿日：2011/06/08

6月6日(月)に332－C地区ガバナーのL田畑英伍と地区キャビネット会計のL渡邉晴子が遠方よりお越しになりました。4月24日に千葉ゆうきのライオンズクラブから332複合地区に義援金をお届けした事のお礼にわざわざお見えいただいたのです。

332－C地区には全国から救援の手が差しのべられています。そのお礼にL田畑ガバナーは全国を周られるとの事。その第一陣に私たちのクラブをお選びになったとのことです。その理由は、女性だけで夜行バスに乗って義援金や義援物資を届けたことをとても感動して下さったからです。確かに夜行バスでの移動はつらかったですが、どうしても手から手へお渡ししたかった、その一念のみで行ってきました。

お二人は朝、10時の新幹線で仙台を出発し、午後1時に海浜幕張に到着されました。そこでお出迎えをし、会員の待つ、ホテルニューオータニ幕張で感謝状をいただきました。

お食事をしながら刻一刻と変わる被害地の様子を聞き、未永い支援の必要性を感じました。昨日で2回しかお会いしたことのないL田畑ガバナーのはずですが、まるで20年来の知り合いのように気さくにお話して下さり、素晴らしいお人柄にふれ、友情を感じた一日でした。

支援事業
銚子LC2010-2011年度3月11日東北関東大震災復旧復興支援事業

投稿者：銚子LC
会長　L島田政典
投稿日：2011/05/31

3 3 2－D地区6R－2Z福島県新地LCに支援物資の自転車60台を4tトラックで2回寄贈しました。5月28日29日、島田会長、宮崎幹事、金島TTヘッドの三人が仙台に泊まり、翌日福島県相馬群新地町役場に入りました。当日L団扇100枚L手拭い100枚L長袖シャツ5枚をダンボール箱2つに入れて寄贈しました。出迎えを新地LC藤田会長さんクラブメンバーの奥様が新地町役場から被災地を案内して下さりました。

町役場から東に3キロ先が海ですが地震による津波で大きな堤防が破壊されて数百メートルも流されて新聞報道された新地駅と停車していた鉄道車両を、のみ込んで今ある4階建ての新地町役場まで到達しました。町役場と海の間は現在、駐留している自衛隊の方々により、出来るだけ人力による懸命な作業で今は架設の道路が作られて瓦礫となった建物・自動車などの撤去作業が早く行われているそうです。被災者の入る仮設住宅は4カ所約2キロ先に有るそうです。

藤田会長の千坪の工場も近くの自宅も津波により、今はありません。現在アパートを借りて住んでおります。25人の従業員の内お一人が避難先から自宅に戻った時に津波にあい今も行方不明です。会社は従業員全員解雇しないで仮設工場で約20％の稼働ですが前向きに考えてこの町の復旧復興に一生懸命取り組んでいくお話を聞いて、胸が熱くなりました。でも実際東北の被災地に今回入ってわかった事はまだまだ手付かずの地域が沢山ある事を報告します。そして被災者の方々が前向きに一生懸命頑張っている事を報告します。

この事業は、台湾台北市龍山獅子会と群馬県桐生中央LCと千葉県船橋LCと千葉県佐倉LCと333－C地区キャビネット、LCIF基金から当クラブに今回罹災地域に入ってお見舞い金が届いたので、皆さんの善意を無駄にしない為に当クラブメンバーからも一律お金を集めて今期の事業資金からもお金を捻出して、新地町役場の他に銚子市と銚子市支援特別学校と隣町の旭地区飯岡LCと当クラブメンバーの方々に義援金、お見舞い金、支援物資としてお配りしております。また今期中には、感謝状を台湾と桐生と船橋と佐倉の例会訪問をしてこの事業報告をします。後3年後には、当クラブ50周年ですから、剰余金は今後50周年事業資金として、まだまだ復旧復興支援事業をこの資金を活用して行っていく事を既に理事会を通して例会承認してありますので皆さん共に今後も前向きに頑張りましょう。

飯岡LCへ被災お見舞い！

投稿者：柏なの花LC
会長　L吉野みどり
投稿日：2011/05/29

5月23日(月)千葉県で地震と津波の被害に遭われた飯岡ライオンズクラブにお見舞いの訪問をさせて頂きました。

「柏なの花LC」と「柏なの花柏若虎支部」で行った街頭募金活動の支援金をお届けに、第1副地区ガバナーエレクトL長澤千鶴子、クラブ会計L山下明子、と私の3名でお伺いしました。

会長L宮内保、幹事L磯村史雄、会計L守部幸一、L向後久男のお迎えを頂き、災害当日の恐怖や状況を写真と共にご説明頂きました。

会員33名から「仲間のひとりが犠牲となってしまった事が何よりも辛い」とのお話しに肩を落とされ、その思いに胸が痛みました。

被災はメンバー17名にも及び、未だ会社の再開の目途が立たない会員とも「今まで通り、手を取り合って仲間として残れる事を検討しています」と語られた。

この様な状況下だからこそ、支えあう事の意味がライオンズに有るのだと思いました。

現在は、被災者も全て仮設住宅に入居され、住居と食生活は安定されているご様子で、今後は経済生活に向け、問題が残されています。

瓦礫は7箇所に集められ、今後はその分別作業に入るとの事でした。また、

今夏の海辺の観光客は、瓦礫の集積場が駐車場でもあり、被災復興状況から難しいでしょう!とも話されていました。

私共クラブでは、4月に支援を決定し、やっと募金された方の思いがお届け出来ました。直接お話も伺え被災をこの目で認識する事が重要であると再確認致しました。

温かな思いのあふれた、素晴らしいクラブを訪問させて頂き、お忙しい中、ご対応頂きまして有り難う御座いました。

心より早期復興を祈念いたしております。

御礼が届きました

投稿者：地区ガバナー　L竹下徳永

投稿日：2011/05/25

ライオンズクラブ国際協会
333－C地区ガバナー
竹下　徳永　様

謹啓

新緑の候、貴下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、去る3月11日発生した東日本大震災による津波発生被害に際しましては、貴クラブを始め多くのライオンズクラブの方々からのご支援並びに丁重なるお見舞いを賜り、厚くお礼申し上げます。

この度の地震による飯岡海岸地区を襲った大津波により飯岡海岸地区は、一瞬にして甚大な被害を受けました。現在、この未曾有な災害に旭市・市民・県内外の関係者が一体となって懸命に復旧作業に取り組んでおるところであります。

私共の多くのメンバーも大きな被害を蒙りましたが、地域の人々とともに復興に向けて頑張っているところでありますので、今後ともこれまで通りご愛顧賜りますようお願い申し上げます。

本来なら、お伺いして御礼申し上げるべき処、誠に失礼とは、存じますがとりあえず書中をもちまして御礼旁々ご挨拶申し上げます。

敬具

平成23年5月吉日

飯岡ライオンズクラブ会長
宮内　保

子供の日炊き出しイベント

投稿者：柏なの花LC
会長　L吉野みどり

投稿日：2011/05/16

5月3日から5日にかけ、全国のライオンネットの呼びかけで2箇所の被災地の子供たちと住民に「こどもの日イベント」を企画し参加してきました。

4日は福島県新地町避難所を訪問。

5日は岩手県大槌町桜木避難所を訪問。

4日明け方より、高知、愛媛、兵庫、福井、岐阜、東京、埼玉、千葉、茨城、栃木、新潟など各方面から新地町役場へ30数名が続々と集結し、笑顔の再会をしました。

千葉県からは、船橋LC・L木全純、松戸ユーカリLC・L高橋昌男・L福澤良夫・L伊原正行・L市川恵一、松戸中央LC・L岩橋明とご子息成明さん、野田LC・L高木次雄、佐倉LC・L廣田正文の奥様とお嬢様、ライオンネットの尽力者杉山民生さんとご友人、そして私の14名が参加しました。

「子供の日」に向けた、炊き出しと遊びコーナー等、来て頂いた方達からは「石原軍団より凄いね～（笑）」とか「震災後初めて肉を食べました～」等々出店の列に何度も並んで頂き、とても嬉しかったです。有り難う御座いました。

行列が絶える事が無かった各コーナーでは「たこ焼きも久々に食べられた～」秋刀魚1000匹とカワハギの炭焼きにも「魚が食べたかった～」と、目の前が海の町でも震災後は新鮮な魚が食べる事が出来なかったんですね。

お天気にも恵まれ、子供達に向けた「水風船割り」「ヨーヨー」「スーパーボールすくい」「お菓子釣り」「輪投げ」「綿菓子」「駄菓子」「文具・絵本・カバンのプレゼント」「バルーン・アート」や「牛乳・野菜ジュース・チョコレート」等を前に「お祭りみたいだね～」と子供たちの笑い声や笑顔にあふれた2日間でした。一緒に楽しませてもらいました。子供たち有り難うね～。

ちなみに、この炊き出しの主力は、阪神淡路の震災から炊き出しを数千食単位で行っている明石魚住ライオンズクラブで、普段もイベントやお祭りで

テキ屋活動をして、奉仕活動の資金を集めています。

L橋本維久夫大隊長の元に食材・屋台に関する全てを見事な技術でトラックに積み込みご用意頂きました。

その屋台は、「たこ焼き」「たい焼き」「ホルモン焼きうどん」「から揚げ」「ポテト」「コロッケ」「そば」「うどん」「お好み焼き」「秋刀魚・カワハギ焼き」「焼き鳥」「ハヤシライス」「牛丼」…等々、時間も大幅に延長しても行列は途絶える事が有りませんでした。

新地町では、既に殆んど地面が見えるほど瓦礫が撤去され、その広域さ凄まじさに胸が痛みました。

町長より、毎朝の町内アナウンスでイベント紹介をして頂き「今日は多くの町民が参加し、被災後はじめて楽しんだ一日でした」とライオンズに御礼の言葉を頂きました。

そして「自衛隊の方たちのお力無くして、今の状況にはなりません。心から感謝しています。これからが大変な復興になります」と述べられました。

しかし、被害に遭った大槌町では、地震・津波・火災が重なり壊滅状態でした。

4月10日に伺ったお隣り釜石市では、道路確保の為、両サイドは瓦礫の山でした。それから1ヶ月が経った大槌町では、道路以外も少しずつ撤去が進んではいるものの、未だ多くは手付かずの瓦礫の区画が残されていました。

私は、今回で2度目3箇所の被災地を訪れ、どの様な復興が出来るのか？個人では成すすべが無い呆然としてしまう光景を目の当たりにして、この無残な現状や痛ましい異臭を胸に焼き付け、忘れてはならない大災害の長い支援を心に刻んで来ました。

ここに書き込みをされて居ませんが、全国で物資搬入に多くのライオンズが動いています。物資の届かぬ地にもたどり着き支援されている方、要請物資をいち早く調達され送られている方…これからもライオンからライオンの手に伝わり、各所に支援されている事にライオンズの素晴らしさを誇らしく思います。

表に出なくとも確実に自分の出来る事をされている、これこそがライオンズ精神です。そんな人に出会える場が「ライオンズ」で有って欲しいですね。

飯岡中学校に義援金を贈りました

投稿者：L片岡英明

投稿日：2011/05/15

5月13日(金)市原コスモスLCが街頭募金した義援金を旭市立飯岡中学校に、持参し寄贈してきました。

3月15日、竹下ガバナー、庄司Lと3名で飯岡LCをお見舞し、宮内会長のご案内で津波による大きな被災状況をつぶさに見ての帰路、車中の中我々で出来ることからやろうと決め、3月19・20日の総勢50名の片づけ隊を編成し、応援に行きました。

市原コスモスLCとしても、小さいことだけれども献血活動に合わせて義援金を募り飯岡に贈ろうと決め、4月2・3日ユニモちはら台店、26日マックスバリュー辰巳台店の献血会場店頭で募金をお願いしました。加えて賛同していただいた2名の方と当クラブで少し追加し、129,840円が集まりました。

飯岡LC宮内会長に相談し、体育館が津波で備品が流された飯岡中学校に体操用具購入の一助にと寄贈しました。

飯岡LCから宮内会長、磯村幹事、当クラブから丸5R-3ZC、片岡会長、板倉幹事が出向き梶山校長に募金箱を手渡しました。

3月11日には、生徒・先生全員日頃の訓練どおり避難し無事だったとの事で何よりでした。

町の瓦礫はおおかた片付いていましたが、これからが大変だと実感しました。がんばれ飯岡！

復興にむけて

投稿者：大網白里LC

投稿日：2011/04/29

4月23日には飯岡ライオンズクラブへお見舞い金を届けに伺いました。被害の甚大さやこれからの問題点などを聞かせて頂きました。

4月24日には釜石市へ支援物資の搬送（第8便）をしましたが、現地のL種市一二、事務局の野田春美さんにお話しをお伺いしましても、まだまだ問題は山積みのようです。

332複合地区義援金を

投稿者：千葉ゆうきのLC

会長　L橋爪雅子

投稿日：2011/04/27

4月24日(日)332複合地区に義援

帰りの車には、この春に就職する予定の職場が被災して、内定取り消しになった高校卒業生を乗せて来ました。

その後、こちら（千葉）での就職先が内定したと聞いて安心しました。

金を届けました。

私たち千葉ゆうきのライオンズクラブは次年度ＣＮ15周年をむかえます。その記念ＡＣＴのために少しずつ積み立てていた蓄えを今回の大震災の義援金にすることを決定し、まず第一弾として、４月18日(月)飯岡ライオンズクラブに義援金をお持ちしました。

そして第二弾として4月24日(日)に３３２複合地区に義援金をお持ちしました。

４月23日(土)、千葉発23時の仙台行きバスに、千葉ゆうきのライオンズクラブ第一副会長Ｌ石橋元子、次期会計Ｌ波木奏美（地区ライオンズクエスト委員長）私、Ｌ橋爪雅子が乗り込み24日早朝6時30分に仙台駅に着きました。

８時30分に３３２－Ｃ第１副地区ガバナーのＬ中嶋慶次と栗原若柳ＬＣのＬ森笠一幸が迎えに来て下さり、３３２－Ｃキャビネット事務局に案内していただきました。

そこには３３２－Ｃ地区ガバナーのＬ田畑英伍、国際理事候補のＬ秦従道他キャビネットの方々が待っていて下さりました。

そこで私たちがお持ちした義援金をお渡ししました。東北３県で分配して下さるそうです。このような大災害の中、わずかな義援金ですが、お役にたてていただけましたら幸いです。

その後、Ｌ中嶋とＬ森笠と大衡エコーＬＣのＬ丑田陸男のご案内で気仙沼に行きました。個人的なことながら、気仙沼は夫が以前仕事で毎月訪れていて私も４回ぐらい一緒に連れて行ってもらった思い出深い土地です。温かい人情と美味しいお魚、宝物のようなすばらしい思い出の地です。そこはテレビの画像で見る以上に悲惨な現場でした。ただ、瓦礫も徐々に片づけられ車が通れる状態になってはいましたが。

気仙沼ＬＣに私たちがあらかじめ３３２－Ｃキャビネット事務局に送っておいた文房具をお持ちし、小学生に配ってくれるようにお願いしてまいりました。

みなさんが、「銀行口座に振り込んだり、物資を送ってくれることももちろん嬉しいけれど、直接持ってきてくれたことが本当にうれしかった。」とおっしゃって下さいました。

それをお聞きし、私たちもお役に立てているのだと感じ、嬉しく思いました。その後３３２－Ｃ５Ｒ－２Ｚのゾーン会議の場にお邪魔し、交流させていただきました。（私たち千葉ゆうきのライオンズクラブも５Ｒ－２Ｚです！奇遇です。今書いていて気が付きました。）

帰りは仙台発23時40分の夜行バスで千葉に25日朝７時に着きました。夜行バスでの移動は肉体的にとても大変でしたが、３３２地区の方々との交流により、これがただ一度きりでなく、これからも長く支援し続けなければと心に誓う一日でした。

こちらからも、どうぞご覧ください。

http://lionsclub333c.org/modules/earthquake/details.php?bid=135

"Belgrade for Japan"

投稿者：Ｌ髙木次雄

投稿日：2011/04/26

Dragan Milenkovicyori

Takagi san e,

Kinoomata bokugasunderutokoro no chikakuni "Belgrade for Japan" toiueventogaokonatteimashita.

Sonotokini Nihon no taishi san no Tsunozakisanni aimashita.

Karegaiuniwa sekai no naka de wa Nihon no tameni enjo no okane o atsumeterukuni no nakadewa Serbia wa 6 banmeni narimashita.

Europe de wa Serbia wa daichidesu.

Enjo no okane o ichiban takusan okuttakuniwa mochiron Amerikadesu.

Demo, binbo no chiisaikuni no Serbiaga sekaide wa 6 banme, Europe de 1 ban ninatteru, jibundemo bikkurishimashita. Doitsuyorimo, Igirisu, Furansuyorimo okaneo takusan atsumete, Nihonni okuttemasu.

Nihon no jishinninattekara, hontoni takusan no Serbia no machide wa NIHON GANBARE toiu event ga okonattemasu. Sonotokini takusan no hitogaatsumatte, Nihon o oenshitari, okane o atsumetari shite imasu.

4 gatsu 11 nichini Belgrade no chuohirobade wa takusan no hitoga atsumatte "Ganbare Nippon" to Nihon o oen shite imashita.

Sono 4 gatsu 11 nichi no evento wa konoDragan no idea de hajimatte, hontoni takusan no hitoga

atsumattekurete, jibun de mo bikkurishimashita.
Dewa mata renrakushimasu.
Dragan Milenkovic yori.

以下、日本語に置き換えました。

髙木さんへ

昨日また、僕が住んでる所の近くに"Belgrade for Japan"と言うイベントに行っていました。

その時に、日本の大使さんの角崎さんに会いました。

彼が言うには、世界の中では日本の為に援助のお金を、集めてる国の中ではセルビアは6番目になりました。

ヨーロッパでは、セルビアは第一位です。

援助のお金を一番沢山送った国は、もちろんアメリカです。でも、貧乏で小さい国のセルビアが世界では6番目、ヨーロッパで一番になってる、順番でビックリしました。

ドイツよりも、イギリス、フランスよりもお金を沢山集めて、日本に送ってます。

日本が地震になってから、沢山のセルビアの町では「日本頑張れ」と言うイベントを行ってます。

その時に沢山の人が集まって、日本を応援したり、お金を集めたりしています。

4月11日にベオグラードの中央広場では、沢山の人が集まって〝ガンバレ　ニッポン〟と日本を応援していました。

その4月11日のイベントは、このデラガンのアイデアで始まって、本当に沢山の人が集まってくれて、自分でもビックリしました。

ではまた連絡します。

デラガンミレコビックより

飯岡LCへ義援金を

投稿者：千葉ゆうきのLC　会長　L橋爪雅子

投稿日：2011/04/23

4月18日(月)に幹事のL岩本朝子とL波木奏美（ライオンズクエスト委員長）と私で飯岡ライオンズクラブに義援金をお届けに行ってまいりました。

次年度、千葉ゆうきのライオンズクラブはCN15周年で記念ACTのための資金をプールしておりました。CN10周年の時に建てたカンボジアの『千葉ゆうきの中学校』の改修等予定をしておりましたが、今はまず被災地への支援をということで、飯岡と東北へ義援金をお持ちすることに決めました。

2時に飯岡福祉センターにて会長のL宮内保と幹事のL磯村史雄、会計のL守部幸一がお出迎えいただき、その後L山中の工場へ案内していただきました。ただ、工場は跡形もなく、広い平地にまだ片付いていないがれきの処理をL山中が自らなさってました。

その後、漁業組合の事務所で義援金をお渡しいたしました。その建物は、一階には水がはいったものの、何事もなかったように建っていました。ここが復興の礎になってくれることでしょう。

幹事のL磯村の工場も甚大な被災ですが、私たちが伺った日に一部再開なさったそうです。

飯岡の漁業もあともう少しで全面再開だそうです。どうぞ、一日も早い復興を心からお祈りいたしております。

浦安・佐原地区の視察報告

投稿者：地区ガバナー　L竹下徳永

投稿日：2011/04/22

1. 現地液状化の状態
【浦安地区】【佐原地区】

2. 参加者
・訪　問
L竹下徳永（地区ガバナー）
L星野鴻一（地区会計）
・現地案内
L内田千尋（元地区ガバナー）
L熊切克巳（浦安LC会長）
L池田忠宏（7R－RC）
L杉山禎胤（地区PR情報）

3. 行程
・浦安　10時～11時30分
・佐原　14時30分～16時

4. 被災状況
浦安地区――
液状化現象により地盤の沈下・

隆起・水砂の噴出・道路冠水の著しい跡が残っていた。
現在は、ライフライン・上下水道・ガスは、応急仮工事が進んでいる。
住居の傾斜により転居した会員も居る。
佐原地区――
利根川の支流区域の液状化により沈下・隆起が30～50㎝に及んでいる。道路の改修工事進行中であるが、乗車中でも大変ガタガタと凹凸を感じた。また、電柱の傾斜が目立ち危険を感じた。
両地区会員の皆様の困難をお察し申し上げ、一日も早い復旧をご祈念申し上げます。

写真等もっと詳しくは下記アドレスからご覧ください。
http://lionsclub333c.org/modules/earthquake/details.php?bid=131

相馬市支援報告2

投稿者：柏みどりLC　L永岡紀子
投稿日：2011/04/20

相馬市に支援物資を届けてきました。メンバー有志2名が他クラブご夫妻のご協力を得て、缶詰・カップ麺・マスクを直接手渡しすることが出来、早速晩御飯に食べていただきました。
時間が経つ程に、物資支援の継続他にメンタル面での問題も大きくなってきている様です。
段々暖かくなるにつれ必要な物資も出てきます。
次の支援活動はどうすべきか考え活動しようと思います。

支援の輪

投稿者：大網白里LC
投稿日：2011/04/15

大網白里LCのスポーツ支部（L工藤雅夫）によるチャリティーコンペが4月13日にバーディゴルフクラブ（八街市）で行われました。今回はL工藤雅夫の計らいで大いに盛り上がった上に、多くの義援金をお預かりをしました。
また、当クラブメンバーのL天野武人が会長を務める『かわせみの会』（ゴルフ会）からも義援金を預かりました。
また、L角河博文は4月14～4月15の予定で釜石市（6回目）に支援物資の搬送をしています。
来週の特別支援委員会で今後の活動方針を検討します。

飯岡LCへ3回目のお見舞い

投稿者：地区ガバナー　L竹下徳永
投稿日：2011/04/15

震災から一か月が過ぎました。今、333－C地区挙げて支援活動が行われております。
支援物資を携えての現地慰問・就職の斡旋・義捐金等々復興を願う会員各位の熱い気持ちに触れ、大変有りがたく感謝の気持ちで一杯であります。
去る12日㈫に、飯岡LCの被災された会員15人のお宅を訪問し復興状況を視察させて頂きました。
飯岡LC会長の宮内保氏と会計の守部幸一氏にご案内頂きました。ご本人やご家族に当時の状況をお聞きしました。
「自家用車で避難したが、津波の引き潮で流された。防波堤前まで来て運よく止まることが出来た」
「玄関に出たところ、水が迫ってきたので階段を上って二階へ逃げようとしたが下からどんどん水が上がってきて胸まで来てしまった。しっかり掴まって頑張ったので助かった。まさに〝九死に一生〟の心境です」
ガバナーが手を上にのばしている写真がありますが、水はその更に20センチメートル位上まで来たそうです。
流された住宅・工場跡はだいぶ片付いてはおりますが、まだまだ辛く厳しい状況が見て取れます。各クラブにおかれましては、今後もご支援のほどよろしくお願い致します。
被災地の、一日も早い復興を心よりお祈りしております。

内定取り消し就職支援

投稿者：大網白里LC　L角河博文
投稿日：2011/04/13

物資面の支援も大切ですが、ライオ

ンズクラブのメンバーが1番支援出来ることが内定取り消しをされた生徒を一人でも救う事ではないでしょうか！皆さんご協力お願い致します。

第1及・第2副地区ガバナーも

投稿者：大網白里LC　L角河博文

投稿日：2011/04/13

金井一夫第1副地区ガバナーと長沢千鶴子第2副地区ガバナーも被災地釜石を現地視察を行いました。

今回の地震災害は1年2年で復興出来る範囲の規模でなく長期的な支援活動が要求されています。物資面だけでなく、人的雇用の問題も今年よりも来年、来年よりもその先と支援が必要とされます。ライオンズの活動が今こそ期待されています。

被災地支援第5弾　4月9－10日

投稿者：大網白里LC　L角河博文

投稿日：2011/04/13

皆様のご協力頂き、被災地支援第5弾も、4tトラック山積みとなりました。ありがとうございました。

千葉県旭市に義援金を

投稿者：成田グリーンLC　L小泉吉則

投稿日：2011/04/13

4月11日(月)成田グリーンLCは、東日本大地震千葉県で一番大きな被害に逢われた旭市に義援金を贈ろうと言う事で、2，814，669円を集め飯岡ライオンズクラブの紹介で千葉県旭市の明智忠直市長に直接我がクラブの会長平尾Lよりお渡し致しました。2，814，669の内訳は、姉妹クラブの台湾桃園仁友ライオンズクラブの義援金が1，314，669円、そして成田グリーンライオンズクラブから1，500，000円です。当日は、飯岡LCの会長宮内L初め幹事、会計のも同席して頂きました。

飯岡LCのメンバーも34名中14名が被災され、うち6名がアパートに住み移ったと言う事です。

427棟が全壊、被害総額109億だそうです。

その日、夕方又余震がありました。次の日にも、また大きな余震がありました。

いつまで、この地震は続くんだろう……。

義援先は相馬市へ

投稿者：柏みどりLC　L永岡紀子

投稿日：2011/04/11

当クラブメンバーの御実家が相馬市にあり、東日本大震災の津波により流されました。相馬LC・L草野氏との連絡が取れ、現地被災情報を得たところ、道路事情が悪く支援物資が届かないとの事で、当クラブでは支援先を相馬市と決めました。

街頭募金は相馬市役所へ送金、柏市立富勢小学校PTAのご協力により、衣類等ダンボール11箱を連絡先のL草野氏に4月9日配送しました。4月10日には、缶詰390個カップ麺168個を買出し4月15日メンバー3名で現地に届ける予定でいます。長期的な支援が必要だと痛感しております。

宮城県石巻市

投稿者：千葉ネオLC会長　L塚本篤史

投稿日：2011/04/11

昨日、クラブメンバー5名＋1名にて、宮城県石巻市まで向かわさせて頂きました。

セオサイクル西千葉店様よりご提供

頂いた新車の4台と、クラブメンバーからの提供車輌5台の自転車、そしてクラブからの生活支援物資を2ｔ車とハイエースに満載し、一昼夜を掛けての搬送となりました。

別途同行の青年会議所グループと連携での石巻行きでしたが、現地にてＬ阿部浩（石巻中央ＬＣ・４Ｒ－２ＺＺＣ）と連絡を取ることが出来、支援物資は全てライオンズメンバーに手渡しすることが出来ました。

残念ながら今回私は同行出来ませんでしたが、メンバーの報告によりますと、現地ではある程度支援物資が集まっております。但し、その配分、配送に手間取っており、避難所を離れている被災者の方々まで支援物資が届いていない状態にあり、被災者の中でも格差が生まれているようです。行政とは別の細やかな動きの取れるＬＣメンバーにお渡し出来たことは幸いでした。

現地では、Ｌ阿部自身が被災者であり、石巻中央ＬＣのメンバーに於かれましても甚大な被害を受けており、現地各ＬＣの存続以前の問題となっているとのことでした。

１ヶ月を過ぎた現在に於いてもかかる状態で、復興の名の下での活動は未だ進んではいない状態かと思われます。今後も支援を継続して頂きたいとのお話しでした。

メンバーの感想は、現地での支援物資のニーズが細分化されてきております。大量に必要な消耗品の類の大半は足りてきており、これからは仮設住宅や被災住宅など避難所外での活動に必要な物資、人的支援、心のケアへの移行期かと思われます。

３３３－Ｃ地区皆様の支援を今後も頂きたいとのことでした。

又、ＬＣＩＦからの支援内容は３３３－Ｃ地区からの支援活動に活用することは出来ませんでしょうか。現地での状況は刻々と変化しております。地区又は複合地区としての支援活動の方向性がより明確になることを望みます。

今後の復興支援

投稿者：地区ＥＸＴ・会員維持委員長　Ｌ実籾富二男

投稿日：2011/04/11

第４回ライオンズスクールが４月９日に開催されました。

３３３－Ｃ地区の参加者約25名がグループに分かれ、東日本大震災について意見交換を行いました。

今後の復興支援について、日本全国の各クラブに被災地のクラブを割り当てて、日本全国の数十のクラブが一つの被災クラブ・地域を受け持って支援する、というアイディアが出て、多くの参加者の賛同を得ていました。

被災したメンバーの退会や、被災した地域のクラブの解散を防ぐために、地区に振り分けられるＬＣＩＦの資金による支援を希望します。

一つのクラブも解散することなく、一人のメンバーも退会することのないように。そして、奉仕活動が続けられますように…。

３３３－Ａ地区より災害見舞に来葉

投稿者：地区ガバナー　Ｌ竹下徳永

投稿日：2011/04/06

４月５日㈫、３３３－Ａ地区の地区ガバナーＬ佐藤和正氏、複合地区顧問Ｌ加藤弘明氏、複合地区管理委員Ｌ柴山富栄氏の３名は、キャビネット事務局へ到着され、災害のお見舞を戴いた。

一行は３日前に新潟を出発し、岩手・宮城→茨城・栃木→とハードスケジュールを続けて来られたようである。

当地区は、竹下徳永地区ガバナー、金井一夫第１副地区ガバナー、長澤千鶴子第２副地区ガバナー、加島正男地区幹事、星野鴻一地区会計の５名でお迎えした。

３３３－Ａ地区は、数年前に「中越地震」に見舞われており、その経験談は今後支援活動を続けるためにも有意義なひと時であった。

釜石ＬＣのライオン達にお礼を

投稿者：宋　如芳

投稿日：2011/04/06

避難所の方が白いご飯だけで栄養バランスが偏っている現状と聞き、何とか改善する方法がないかと私の料理教室の生徒15人の協力を得て混ぜご飯の具材を３００人分作り、同時に第一線で頑張るライオン達に感謝の意を４月２日釜石に届けに行って来ました。

大和田Ｌが中心になり、釜石避難所での皆さんの希望を聞き、物資を集めようと知りました。多数のライオンご自分の事業を疎かにして震災の支援のため、改めて感謝を申し上げたいです。有難うございます。

さて、各方から頂いた大切な気持ちですがただ一人のも無駄になりたく

ないです。釜石はまだまだ寒い、折角割愛した風呂釜は一刻でもお湯を沸かし、避難の方にお風呂に入って頂きたいです。釜石のライオン達くれぐれも宜しくお願い致します。

最後になりますがわれわれライオンズは物資を運搬しているのではなく、我々は人様の愛情を運搬しているのです。だから災難中わが身を振り向かず前のみに進められます。今回つくづく思います。

尚、名を挙げず我が松戸みどりLCにも感謝致します。

有難うございます。

お礼

投稿者：釜石LC

投稿日：2011/04/03

釜石ライオンズクラブでは、皆様の尊敬する会員様が二名おなくなり、これまで中心となって活動しておりました野村幹事は、今回の津波によりご両親、義姉様を亡くされ、ご自宅、店舗の全ても流され、経営されていたホテルも二階まで被害を被られ、元気をなくされており、他の会員様もご自信が被災されたり、従業員様をなくされたり、なんらかの形で被害を被り、クラブとしての活動は、何もできない、考えられないという状態だったと存じます。

私自身は津波にのまれ、実家を無くし、打撲もあり、職場は危険で近寄れず、傷心で過ごしておりました。

しかし、角河副会長様からご連絡を頂戴し、釜石ライオンズクラブのために遠路駆け付けてくださるというお話を伺い、私も頑張らなきゃと立ち上がる事ができました。

そして、種市議長のお声がけで、3月1日以来久々に被災されなかった会員様が集まり、また、ライオンズらしい活動が再開されました。

角河副会長様が釜石においでくださった事に心から感謝いたします。

それから、千葉県内ライオンズクラブの皆様のご連携、暖かいご支援にも感動しております。

本当にありがとうございました。

写真集（PDF）で、ご覧ください。

http://lionsclub333c.org/modules/d3downloads3/index.php?page=visit&cid=2&lid=55

女性支援

～女性ゆえの悩みを抱える被災地の女性たちへ～

投稿者：千葉ゆうきのLC

会長　L橋爪雅子

投稿日：2011/04/03

長澤第2副地区ガバナーのお声掛けで、女性支援対策本部が3月28日に立ち上がりました。

被災地には女性も男性もないと思われるでしょうが、私たち女性には男性に言えない悩みがあります。その悩みを同性の女性だからこそ、手助けをしたいと333－Cの女性だけのクラブの会長が集まり、話し合いをしました。

避難所では2週間も風呂に入れない状態が続いているばかりか、下ばきさえ取り替えられないという状態です。また、赤ちゃんのミルクやおむつそして衛生ナプキンも不足しております。もしそれがわが身に起きたらと考えただけで恐ろしくなります。居てもたってもいられなかったところ、今回の会議になりました。まず、ライオンズからライオンズに送ることによって、確実に、迅速に、必要な場所に届けられるということで、私たちが調達をし、現地のライオンズクラブに送ることになりました。

私たち、千葉ゆうきのライオンズクラブは猪苗代町に女性用下着と靴下を4月1日に発送しました。これは皆さんの支援資金から支払われます。大量の下着類を買い求めましたが、お店側も協力して下さいました。

日赤や行政も支援金や物資を集めていますが、じりじりするほど被災者に届くのが遅い。そして、街頭の募金では「ライオンズクラブだから」と協力をして下さる方が大勢いらっしゃると聞きます。だからこそ、私たちライオンズの手で救済をと思います。

物資を送るときには、届いたその場ですぐに配れることが重要です。今回は安くて良いものを大量に買ったため、ショーツは2枚1組、靴下も3足1組と糸で止めてあります。それを一つずつばらばらにし、サイズごとに段

ボールに詰めて送りました。その作業は私の姪たちにも手伝ってもらいました。これは彼女たちにとっても、いい体験です。（写真）全部で6個の段ボールになりました。

金銭を寄付することも大事なことですが、『今必要としているところに今渡す』これができるのがライオンズだと確信しております。

街頭募金

投稿者：3R－1Z
ZC　L仙田秀一
投稿日：2011/04/03

心を合わせてWe Serve。

3R－1、2Z　12クラブの精鋭が東日本大震災街頭募金を3月27日(日)柏駅周辺で行いました、

重いが小さな貯金箱を抱えて笑顔の子供、子供づれのお母さんが高額紙幣、高校生がお札を2枚、3枚と募金箱に大勢の方々の多額の浄財が集まりました、メンバーは大切なこの善意を預かり被災地に届く様に決意をしました。

ライオンズクラブの社会に溶け込んだWe Serveは素晴らしい。

写真集は、下記アドレスをクリックしてご覧ください。

https://picasaweb.google.com/lionsclub333c/20110327#

日本が一つになる時

投稿者：L高橋弘明
投稿日：2011/03/31

JR船橋駅前で3月20日と3月27日の両日、4AR－1Z・2Zで合同の街頭募金を行いました。

船橋ライオンズクラブではメンバーのお孫さん、船橋市議の鈴木議員が強力な助っ人となり、被災地へのエールと募金のお願いに声をからしました。停電があったり、交通機関がまひしたりする事で、日頃私たちが見失っていた当たり前の事がどれだけ大切な事で有るか、日本中のみんなが今回の被災で知ることとなりました。

街頭で募金のお願いをすると、小さい子供が我先にと募金箱に走り寄って来てくれる姿をみると、本当に目頭が熱くなります。

大災害は本当に残念な事で有りますが、この大災害を乗り越える事で、日本が一つになり、またもとの強くて暖かい日本にきっとなれると信じています。

暖かいご支援を直接届ける

投稿者：南房総LC
投稿日：2011/03/31

先日行われた、街頭募金を有効に活用させて頂きました。皆様から頂いた暖かいお気持ちを直接届けることができました。感謝とともにご報告させて頂きます。

大網白里ライオンズクラブのL角河博文さんが、30日に岩手県釜石市に向けて出発予定と聞き、それに間に合うようにと現地で必要とされている物、南房総ライオンズクラブで味噌＆醤油等を担当させて頂きました。2011年3月29日、朝から連絡し支援物資をその日の内に準備をさせていただきました。(昨晩に出発の話をお聞きしたため)

■味噌35ケースとオレンジ12ケース
■おにぎり用の焼き海苔を千葉県漁連のり流通センターに依頼し、焼き海苔500帖を頂きなお2ケースまで余分に頂きました。
■醤油については、地区IT・ALERT副委員長長谷川健登(野田LC)に依頼し、L鈴木（関宿LC）を通して1リットル15本入り30ケースを提供して頂きました。

それぞれ、その日に手配して頂きましたこと、ご無理を言って申し訳ありませんでしたが、無事に岩手県釜石市の釜石ライオンズクラブを通して各避難所に直接届けることができました。ご協力をしていただいた企業の方々本当にありがとうございました。感謝を申し上げます。

30日には、柏市から他クラブの支援物資を積み込み、4tトラック一杯にして出発しました。333－C地区各クラブからの支援物資を載せて出発してくれたL角河博文には、連日の20時間の往復（釜石市へ4往復）をしていただき感謝を申し上げます。本当にお疲れ様でした。

(各クラブでの支援物資の内容は報告別途あると思います)

こうして、ライオンズクラブの支援は、現地のライオンズクラブがいるから支援物資が倉庫に眠らずに、直接必要をされている方々へフェイストゥフェイスで生きた支援ができること。素晴らしい体験をさせていただきました。釜石ライオンズクラブの皆様にも感謝を申し上げます。ありがとうございました。

活動報告

投稿者：鴨川LC若獅子支部
L吉田正弘
投稿日：2011/03/31

3月23日、緊急例会を会長のL黒木の会社に招集した。支部として何ができるか、熱いライオン達の議論が交わされた。

千葉県庁にて、物資の受付窓口がスタートしたと情報を入手。

3月25日、会長L黒木、幹事L吉田の2名にて、千葉県庁中庁舎に届けてきました。

多くの県民の方々がひっきりなし

に、救援物資を届けに来ていました。
今回の物資は、左記の通りです。
紙コップ、12，500個、大人用、ベビー用おむつ、サランラップ、飲料水。
L黒木会長、「今回の支援が、一過性のもので終わらぬよう、第2回目の支援をまた考え、活動したいと思います。」

街頭募金2日目を終了

投稿者：白井あすなろLC　一同
投稿日：2011/03/31

去る、3月29日㈫街頭募金2日目を終了しました。

今回は、北総線「西白井駅」で夕刻の2時間行いました。家路を急ぐ、皆さんの暖かいご協力を頂きました。前回行った「白井駅」とは異なり、電車が到着してから5分くらいが勝負。参加したメンバーは、元気よく大きな声をだし、深々と感謝の礼をしがんばりました。
日々、悲惨さが薄れている事を実感。定期的な活動が求められる。そう感じました。報道されている内容だけでは本当に十分でない。もっと沢山の人にわかっていただきたいと思います。
クラブメンバーの中には、現地からの要望にいち早く応え、断熱材130枚をその日の内に提供しました。東北の現地入りも果たし、企業復興の協力もはじめています。
継続的な活動とするため、明日、緊急理事会を招集し計画案を協議する予定です。
被災された皆様に一日でも早く「平穏」が訪れますよう、一同、心よりお祈りしております。

ライオンズクラブの役割と活躍

投稿者：L松本宰史
投稿日：2011/03/31

今回のような大規模な被災で、何をどうするのかと戸惑いがありましたが、その情報の取り扱いは、ライオンネットが大活躍されました。
特に、被災地からのヘルプ発信が重要な役割を持っています。そして被災地元ライオンズクラブが現場を掌握に努め、ピンポイント支援で、フェイストウフェイスで直接必要としている方へ手渡しができたことは、全国組織となっているライオンズクラブのネットワーク組織力の賜です。
このようにして、物資を倉庫に眠らせるのではなく、時間との戦いで生きた支援となって全国のライオンズクラブから支援できたことは、誇りとするところです。
まだ支援は続きます。当然ながら、みんなで協力し合うことが大事ですが、困っていることは、遠慮無くヘルプを出すことが必要なことですね。
我々の目的は、We Serve　奉仕することであるから。

義援金募金活動終了報告

投稿者：鎌ケ谷飛翔LC
L坂上雅美
投稿日：2011/03/30

3月21日(月)から、予定どおり28日(月)まで、新鎌ケ谷駅東武野田線改札前の自由通路で実施しました募金活動を終えました。
8日間の総活動時間は約28時間、延べ参加者数（クラブメンバー）は43名でした。
なお、この活動には、槇の木LEOクラブのメンバーと、鎌ケ谷青年会議所の方々の多大なご協力をいただきました事を併せてご報告申し上げます。
休日は日中から夜間にかけて、平日は夕方仕事を終えたメンバーが集まり、行きかう人々に被災地への支援と協力を呼びかけ続けました。
最終日は、7日間のご報告と支援や協力に対するお礼を致しましたが、自ら募金を申し出てくださる方の多さに、クラブ員一同感激し、感謝でいっぱいです。
毎日募金をしに来てくれた少年、「毎日大変ですね」と声をかけてくださった方など、多くの皆様の暖かさが、寒さや疲れを忘れさせてくださいました。
また、激励と慰労をいただいたスポンサークラブの先輩ライオンのお心遣いが大変ありがたく、またうれしく思っています。
被災地の復興はこれからです。被災された方々と被災した地を忘れずに、皆が笑顔で普通の生活を送れる日が早く訪れることを願っています。
同時に今回の活動がほんの少しでもお役にたてれば、と思います。
これが終わりではなく、次に自分たちにできることを探しながら、今後も考え、動いていこうと思っています。

女性支援対策本部の発足

投稿者：L松本宰史
投稿日：2011/03/30

3月29日キャビネット事務所にて、女性支援対策本部の会議があり、地区ガバナーL竹下徳永と第1及び第2副

地区ガバナーと地区ＩＴ・ＡＬＥＲＴ委員長が出向き、設立とその活動について具体的な支援について話合いが行われました。

この会議は、女性クラブが中心となって、女性の立場で、女性ゆえの問題を抱える被災地の女性達へ支援していこうと、第2副地区ガバナーＬ長沢千鶴子が、立ち上げました。

これは、元国際理事Ｌ後藤隆一から女性への支援の指導があって、立ち上がったものです。

被災後二週間がたち、地区としての具体的な支援の方向が示されない中で、先陣を切った形となりましたが、被災地では二週間もお風呂に入れないなど、とても想像できない現実があります。ＴＶでは温泉や自衛隊の簡易お風呂など放映されていますが、ほんの一部で全体を見ると、悲惨な状態がまだ続いているのです。それを岩手県釜石市被災地に直接行っている、大網白里ライオンズクラブのＬ角河博文のお話からも伺うことができます。

以上のことから、被災規模からしても微々たることかもしれませんが、黙っていられない気持ちは誰しもあると思います。

この女性支援対策本部では、今後まだ続くことを見て、第一回の支援を各女性クラブを中心にリジョン単位で支援することになりました。

支援する物資は、女性用下着、肌着、生理用品、粉ミルク、紙おむつ、おしりふき、哺乳瓶等となりました。

これにより、個別や単独クラブでの支援でなく、地区として活動を開始することになりました。

対応が遅い、早いとかでなく、今、出来るところから、支援や応援していきたいと思います。

皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

福島県会津美里町へ支援物資を

投稿者：千葉ネオＬＣ
Ｌ実籾富二男
投稿日：2011/03/30

３３５－Ａ地区明石魚住ＬＣの橋本会長から、８複合地区が福島県へ無洗米10トンを届けるので搬入を手伝って欲しいとの要請を受け、27日(日)車3台13名で福島県猪苗代町に行きました。千葉ネオＬＣ９名（3月入会2名含む）、一般3名に加え、松戸ユーカリＬＣのＬ高橋昌男にも声がけして参加していただきました。

猪苗代町で無洗米10トンと下着の入ったダンボールを降ろし、５kg入りの米２，０００袋にライオンズのシールを貼りました。

その後、地元メンバーの方に先導していただき、会津美里町（高田庁舎）に、無洗米５００kg（５kg×１００）と、千葉ネオＬＣからの物資ダンボール４箱（石鹸、タオル、寝巻き、下着等）を届けました。

町長の話によると、福島原発に隣接する楢葉町から会津美里町に避難されている方は約１，３００名だそうです。計算してみると避難されている方の１日分の米ですが、「ありがたい」とのお言葉をいただきました。新入会員からは「参加できて本当に良かった」、一般の方からは「是非、ライオンズ入会を検討したい」との感想をいただきました。

車の左となりは会津美里町長です。Ｌ高橋昌男はいわき市に無洗米を届けました。

駅頭募金活動

投稿者：大網白里ＬＣ
投稿日：2011/03/29

３月29日、大網駅駅頭にて千葉九十九里ひまわりＬＣと合同募金活動をしました。

ＺＣのＬ井深も手伝って頂き、多くの方々に支援募金を頂きました。

今後も、物資と資金の両面を視野に入れて活動できればと思います。

感謝と驚き！ライオンズ仲間の友情

投稿者：宋　如芳
投稿日：2011/03/27

世界のライオンズクラブの方々へ

この度、日本の大震災に多額の義捐金を寄付して下さり心より感謝を申し上げます。

東北岩手県陸前高田市出身の主人の実家が被害を受けましたが幸いに両親は無事でした。18日一緒に現場を見て来ました。その時、彼は大号泣しました。街自体が消えました。流された母方の祖父、親戚の跡地の瓦礫の中を幾度も探しました。生きているかもひとり言呟いていました。

今まで、私はライオンズとして人々に金銭と労力奉仕することは当たり前と認識して来ました。しかし、3月11日の地震と津波で私は頂く側になりました。

私にとってもう一つの実家は釜石市です。そこで我が子の出産と育児をしました。沢山の見知らぬ優しい方にお世話になりました。今こそ恩返したいと思いますけれど今の私は陸前高田のことで精いっぱいです。釜石にいる友人の安否をとれました。何かしてあげたい今まで頂いたものを少しでも返してやりたい。しかし、釜石までに行く時間の余裕がない申し訳ないと思ったところです。大網白里ＬＣ釜石市救援物資を届けたメールを拝見して而もＬ角河博文のお名前を見た途端、私の目から涙があふれ流れました。まるでライオンズの仲間が私の代わりに釜石に行ってくださいました。何てことだろう?本当に嬉しかったです。ライオン有難う。角河ライオン有難う。

また、やられました。貴方達と知り合って本当によかったです。真心のライオンズ精神を受け継げられるかも?

駅頭募金　8日目

投稿者：千葉グリーンＬＣ
メンバー一同
投稿日：2011/03/27

当クラブの地元千葉市緑区と隣接する大網白里ＬＣの皆様をはじめ、県内各クラブの皆様の並々ならぬ震災援助活動に心より敬意を表させていただきます。

千葉市緑区内ＪＲ3駅（鎌取・誉田・土気）で時間と場所をづらしながら8日間連日行ってきた駅頭募金を本日でひとまず終了しました。

どうやら、たとえ小額でも何か支援したい多くの皆様の受け皿になることができたようすです。

多くの皆様のお気持ちに心より感謝申し上げます。

次は物的支援を計画中です。

釜石市へ

投稿者：大網白里ＬＣ
投稿日：2011/03/26

岩手県釜石市へ2度目の支援物資を届けました。

今回は前回の毛布・衣類・カップ麺類と違って、野菜類を中心とした食品及び市内移動用の自転車を届けました。主な支援物資は左記の通りです。

- スタイロフォーム（断熱ボード）……40枚
- パイプ椅子……10脚
- 野菜類……約30箱
- 下着・衣類……2箱
- お米……約１００kg
- ふろ釜……1基
- テント……1張
- 自転車……20台
  （八千代市より撤去自転車を譲り受けました）
- サロメチール……１００本
- その他

Ｌ角河博文お疲れ様でした。

臨時理事会にて（被災地）特別支援委員会を立ち上げました。まずは千葉九十九里ひまわりＬＣと合同で募金活動を行う予定です。

相馬ＬＣに義援金とチャリティゴルフ大会

投稿者：流山ＬＣ
会長　Ｌ田中武
投稿日：2011/03/25

本日、流山ＬＣ例会にて相馬ＬＣに１００万円の義援金を送付させていただくことを決定いたしました。これはキャビネット、ＬＣＩＦの義援金募集とは関係なく、姉妹クラブとして、被災されました相馬ＬＣに直接届く資金として拠出致しましたので、直接受け渡しを行いたいと思います。

また、4月27日に予定させていただきました流山ＬＣチャリティゴルフ大会につきましては、今回の震災の影響と状況を考え、中止とさせて頂くことになりました。お申込み頂いた皆様、またご参加をご検討いただいた皆様には誠に申し訳ございませんが、なにとぞご理解いただきますようよろしくお願いいたします。

義援金募金活動報告

投稿者：白井あすなろＬＣ　一同
投稿日：2011/03/25

3月24日(木)曇、結成初のクラブ単独での活動報告です。メンバー12名と1匹（犬）は、北総線「白井」駅前で

東日本太平洋大地震「義援金募金活動」を行いました。

道路使用許可申請も準備も何も分からず、すべて手探りで迷いながらの開催。不安いっぱいでした。

白井ＬＣ・Ｌ山崎、船橋北ＬＣ・Ｌ宮澤より、元気いっぱいに大きな声でお願いしなさいとご指導を頂きました。

小さなお子さん、高校生、駅近隣の市民の皆様、お仕事で白井駅をお使いの皆様方、沢山の方が善意の募金をしてくださいました。本当に感謝でいっぱいです。

その後の食事会で「次は、いつにしましょうか?」という声が多数上がり、急遽３月29日㈫北総線「西白井」駅で実施することが決定いたしました。メンバーのベクトルが同じ方向にあると確信した一日でした。

ありがとうございました。第２回もがんばります。

駅頭募金5日目です

投稿者：千葉グリーンＬＣ
メンバー一同
投稿日：2011/03/24

県内ブラザークラブの皆様がそれぞれの地域性や対処方により行っておられる、身を惜しまぬ震災対応に重ねて敬意を表させていただきます。

３月20日付で投稿させていただいた地元駅頭募金を駅を変え、時間をづらしながら、メンバーが交代で、仕事の後、あいまに、連日実施しております。

小額も積もれば大金になります。

阪神淡路やその後の震災に行った募金に比べても、やはり、今回は反応が桁違いなことも身をもって感じました。

被災地の復興を祈念しながらもうしばらく続ける予定です。

尚、参加メンバー氏名の羅列や、記念集合写真のアップ等は、被災者を配慮し、現時点では控えさせていただきます。

香取市内の被災状況写真

投稿者：Ｌ松本宰史
投稿日：2011/03/23

液状化で被害の大きかった、浦安や市川などが報道されていましたが、香取市も大きな被害が発生していました。

液状化により、道路や建物などに被害が多数、道路の亀裂も想像以上のものでした。ブロック塀や建物の倒壊もあり、ここ香取市も大きな被害となっていました。

香取市のＨＰをご覧ください。

http://www.city.katori.lg.jp/saigai/saigai_photo.html

ボランティア救援隊

投稿者：市原南ＬＣ
Ｌ星野鴻一
投稿日：2011/03/22

３月20日、前日に続き竹下ガバナー、５Ｒ－３ＺのＬＣ、君津ＬＣの総勢29名のボランティア救援隊は、飯岡ＬＣ宮内会長の指揮により、津波で崩壊した家屋の撤去作業や土砂の除去作業に従事しました。また生活用品等の救援品65点を届けました。当日は２千人近いボランティアが参加したとのことです。挨拶にこられました自治会の代表者が涙ながらに「この恩義は忘れません」と感謝の言葉を述べられました。一日も早い復興をお祈りしたいと思います。

Ｒｅ：ボランティア救援隊

投稿者：君津ＬＣ
Ｌ正木守
投稿日：2011/03/23

２０１１年３月20日、飯岡の被災地へ奉仕活動のため５Ｒ－３Ｚの市原南ＬＣを中心としたメンバー29名で参加しました。

この活動は、５Ｒ－３Ｚの旭市飯岡地区の被災地救援活動として行われました。

第一班は、市原ＬＣ・市原コスモスＬＣ・市原グリーン・市原かずさＬＣの事業として、３月19日に行われました。

第二班は、市原南ＬＣ・市原東ＬＣ・市原いちょうＬＣ・市原さくらＬＣの事業として、３月20日に行われました。

この事業のお誘いに君津ＬＣから３

名参加いたしました。
この日の流れを、君津ＬＣからの立場で紹介致します。
この日準備したものは、作業服・作業靴・ヘルメット・角スコップ・のこぎり・軍手・タオル・ＬＣジャンパー
7時　君津集合
8時　市原杉田パーキング集合
8時30分　飯岡へ出発
10時　飯岡到着
飯岡ＬＣの会長が出迎えに見えられ、とても心強く感じました。そののち、受付手続きに約1時間程時間を費やしました。
11時　被災現場到着・作業開始
私たちの作業内容は、飯岡地区の公民館の後片付けで、公民館の中にある。棚・座布団・カーテン等の運び出しと、土砂の除去作業でした。
12時　休憩と昼食
飲み物と食事は市原第二班メンバーの方に、準備していただきました。
12時30分作業再開で、29名とても手際よく行いました。
見る影もないほど、混乱していたものを運び出し、たまっていた土砂もきれいに片づけることができました。
14時には作業を終了し、飯岡の代表の方がお礼の挨拶をするときに、「ありがとうございました」の後は言葉にならず涙を流しておられました。
今大切なことは、心を形に表すことであり、被災者の皆さんが立ち上がれるよう共に、汗を流してあげることではないかと感じました。
言葉にならない感動を後に、ライオンズマンとしての誇りを胸に帰途につきました。
14時30分に作業終了の手続きを終え
16時に市原に到着
17時に君津に帰り反省会を済ませ、一日を無事終えることができました。
何よりもうれしかったことは、一人のけが人もなく終了したことでした。

街頭募金を行いました。

投稿者：南房総ＬＣ
会長　Ｌ川名融郎
投稿日：2011/03/21

南房総ライオンズクラブでは、館山市ショッピングセンタージャスコ、ロックシティーで我々メンバー10名と前ＲＣＬ伊藤領英もお手伝いを頂き街頭募金を行いました。
県南は人口が少ないので、あまり期待をしていませんでしたが、予想を遥かに超え、皆様には関心の高さを感じました。
特に子供さんが多く募金してくれました。お小遣いから、少しでもと皆さんの心温まる行為に胸を熱くされてしまいました。

午前中は、雨も本降りで、一時はどうなるかと思っていましたが、やることに意義があるので、結果を求めずに行いました。そして会員からも、やって良かったとの声でホッとしました。沢山の方からの心温まる募金に感謝いたします。写真は後日掲載させて頂きます。まずはご報告です。

街頭募金活動開始

投稿者：鎌ケ谷飛翔ＬＣ
Ｌ坂上雅美
投稿日：2011/03/21

鎌ケ谷飛翔ライオンズクラブは、例会での議決を経て、義援金を募るための街頭募金活動を開始致しました。
今自分たちにできることは何か？話し合った結果のひとつとして、21日(月)から28日(月)まで一週間、新鎌ケ谷駅に立つことを決めました。
21日は、12名の会員が参集し、午前9時から午後4時過ぎまで、被災地への支援にご協力を呼びかけた結果、25万円あまりの義援金をお預かりしました。
また、当クラブの事業のひとつであるポッドキャスト（ネットラジオ）を通じて、被災者の方々へ激励の言葉を届けます。募金にご協力いただいた方に一言ずつ頂戴致しました。
途中、鎌ケ谷ＬＣのＬ一色雅男会長、Ｌ木曽武男幹事、船橋北ＬＣのＬ宮澤正則氏の激励と軍手等の差し入れをいただき、クラブ員一同大変心強く活動させていただきました。諸先輩ライオンの方々のお心遣いに感謝致します。
また、槇の木ＬＥＯクラブからもご協力をいただきました。
明日から25日までは夕方6時から8時頃まで、同じく新鎌ケ谷駅で募金活動を続けます。

みんなの気持ちが少しでも被災者の方々に届きますことを願っています。

募金活動

投稿者：船橋さざんかLC

投稿日：2011/03/21

3月20日　4AR－1Z・2Zが合同で募金活動を行いました。

JR船橋駅前に大勢のライオンが集合、足立信吉ライオン、小田原隆泰ライオンの機敏な陣頭指揮の下、各クラブごと場所を決め10時より開始いたしました。当クラブも多数参加、子クラブの高瀬ライオン、宇呂ライオンのお孫さんも駆けつけて下さいました。お陰さまで暖かい支援金を沢山頂き　胸が熱くなりました。本当にありがとう皆さん。

資材物資送る

投稿者：千葉ネオLC

会長　L塚本篤史

投稿日：2011/03/19

千葉ネオライオンズクラブ（L塚本篤史会長）は、千葉JCと合同で、千葉県で津波被害の大きかった旭市飯岡の災害対策本部に連絡、足りない物を支援するため連絡をし、ノーパンク一輪車6台、角スコップ20丁、土嚢1000枚、軍手1000組を対策本部へ木曜日に送った。

また、現地入りしてボランティアを行うことになっている。以上報告です。

被災地　釜石へ

投稿者：幹事　L加藤史郎

投稿日：2011/03/20

大網白里LCでは臨時理事会で被災地に対する復興支援を全員一致で可決しました。

早速、本日午後に年間予算の予備費の一部とメンバー及び近隣の方々の提供で支援物資を集めました。

そして、夕方には4トントラックに積込み、地元警察の被災地までの通行許可書をとり、L角河博文が被災地に向けて出発しました。

行き先は岩手県釜石市です。釜石LCを通じて現地避難所の方々に直接、支援物資を届ける予定です。

また、積込んだ物資は左記の通りです。

- カップラーメン……15ケース
- お菓子・珍味・ふりかけ……1ケース
- 食料品……1ケース
- お茶・水……2ケース
- ティーパックのお茶……1000パック
- お米……5kg×20袋
- シーツ……70枚
- 洗剤……7ケース
- 石油ストーブ……2台
- おむつ……9箱
- マスク……1ケース
- ペーパータオル……1ケース
- 石鹸・ボディシャンプー・その他……9ケース
- 手袋……1ケース
- シーツ・毛布・タオル…16ケース
- ティシュペーパー・アルミホイル……3ケース
- 子供服・ミルク……17ケース
- 男女下着……100枚
- タイツ……20枚
- 肌着……20枚
- 靴下……40足
- 生理用品……1ケース
- コンパネ……20枚
- 断熱ボード……20枚

女性への支援物資!!

投稿者：柏なの花LC

会長　L吉野みどり

投稿日：2011/03/21

この度、千葉県が被災地認定を受け大きな被害に見舞われた飯岡地区にC地区獅子達の勇士が復旧作業にあたられ心より敬意を表します。

一日も早い復旧を願っています。

昨日、「MD332災害対策支援」より女性用品の支援要請があり、今回は、女性下着（上下）350枚・生理用品をクラブより送付させて頂きました。

柏の薬局の棚には生理用品が有りませんでしたが、店主の了解を頂き、在庫全てを支援先に送る事が出来ました。

輸送燃料の不足の影響？買占め？品薄状況は…この店舗だけでは無いそうで食料品だけでは無い事を知りました。

地域で駅頭募金開始しました

投稿者：千葉グリーンLC　一同

投稿日：2011/03/20

東北3県はじめ各地被災地の皆様に心よりお見舞い申し上げます

又、県内ブラザークラブの皆様の身を惜しまぬ素早い対応に心より敬意を表させていただきます。

千葉グリーンLCでは、本日夕方より地元のJR土気駅頭で募金活動を開始しました。

当クラブは弱小ですが、ほとんどのメンバーの居宅・事業所が車で、互いに10分圏内という利点を生かし、明日よりしばらくの間、時間をずらし、場所（JR3駅他）を変えながら、募金を続けていくことを決定いたしました。

LCIFやキャビネットに大型支援は託すとして、たとえ小額の募金であっても、すこしでも支援したい人たちの受け皿になることをもって、我々にできる選択肢とさせていただきます。

お礼

情報（PR・IT・ALERT）委員長　L松本宰史

333－C地区ホームページでは、3月11日大震災発生、約1時間後にサイト・トップページをこの掲示版に切り替えいち早く掲載しました。

掲示版は、333－C地区（千葉県）内の、被害状況、安否情報を確認し合うために設置。災害への対応、情報の共有が最も大切なことであることから、この掲示版は有効的に活用され、設置後、前地区ガバナーL竹下徳永からの呼びかけで、地区内133クラブ（当時）から続々と安否情報等が書き込まれました。また、インターネット情報ですので、より多くの人からも見ていただき市民から、また他地区のライオンズクラブ会員からも書き込みを頂き、災害へ支援をするための情報に役立ちました。

ここには、誌面の関係から一部しか掲載できませんでした。全て（284件の書き込み）掲載できなかったことをお詫び申し上げます。

また、貴重な情報を書き込みして頂いた方々に、感謝とお礼を申し上げます。

最後に、前地区ガバナーL竹下徳永のご支援に感謝申し上げます。

震度7の地震

投稿者：L松本宰史

投稿日：2011/03/11　16：03 No.1

11日午後2時46分ごろ、宮城県栗原市で震度7を観測したのをはじめ、東北地方を中心に大きな地震があった。最大で震度5弱の余震も続いている。

岩手県などの沿岸では、津波が押し寄せ、車や建物が流される被害が出ている。宮城県石巻で4・2メートルの津波が観測された。

気象庁は宮城県などに大津波警報を出しており、最大で10メートルの津波が予想される。

▽震度6強＝宮城県北部、宮城県中部　▽震度6弱＝岩手県沿岸南部、岩手県内陸南部、宮城県南部　▽震度5強＝岩手県沿岸北部、岩手県内陸北部、福島県中通り、福島県浜通り　▽震度5弱＝山形県村山　▽震度4＝秋田県沿岸南部、秋田県内陸南部、山形県庄内、山形県置賜、茨城県北部　▽震度3＝山形県最上

皆様、被害の状況は、いかがでしょうか

投稿者：地区ガバナー　L竹下徳永

投稿日：2011/03/12　01：43 No.6

各RC宛にFAXで連絡しましたが、1R、4－BR、8R、9Rは、届きました。他のRは連絡がつきませんでした。（19：45）

私としては、（333－C）会員の皆様の安全を心配しております。

連絡がとれませんので、このALERTメッセージ（掲示版）を利用して、報告等をお願いいたします。

地区ガバナー　L竹下徳永

有り難うございます

投稿者：黒木LC

投稿日：2011/03/12　23：28 No.32

この時間もウオッチされていることに感謝します。

L松本、そして全てのメンバーLIONの活躍を期待します。

福岡県の山奥のちっちゃなクラブですが、なにか、すぐにでもできることがあったら、お知らせください。TVのNEWSみていたら、いてもたってもそんな気持ちになりました。

大変でしたね

投稿者：瀧北美智子

投稿日：2011/03/14　17：55 No.82

大変でしたね。でも皆さんご無事で本当に良かったです。

私たち姫路さくらライオンズクラブ一同、何かお役に立つことはないかと模索しております。何かあれば遠慮なくお知らせくださいね。

お見舞い申し上げます。

投稿者：舞鶴LC　事務局

投稿日：2011/03/16　12：46 No.101

333－C地区　IT・ALERT委員長松本様、大変な状況時に委員長としてお一人での対応、頭が下がります。

お疲れが出ませんように御身大切に！

被害状況まとめと、ブログをそのままコピーし、例会にてメンバーに配布いたしますので、ご了解ください。

335－C地区5R内15クラブにも資料として送る予定にしています。

尚、当舞鶴LCの子クラブ「舞鶴みなとLC」は結成20周年式典を急遽取りやめ、その資金を義捐金とすることを決定いたしました。

追記：ここに設置当初と、他地区からの書き込みを一部掲載しました。

詳しくは、333－C地区ホームページをご覧ください。

当初は、電話やFAX回線が使えないなど混乱し、クラブへの連絡も取れず安否確認もできない状況でした。そんな中で、インターネットだけが、辛うじて皆さんとの連絡がとれるなど、この掲示版が役に立ちました。そんな当時のリアルなやり取りが、残されています。

クイズに答えて『星襄一』絵はがきをゲットしよう！

LION'S DISTRICT333-C NEWS 2011（地区ニュース）を最後までお読みいただき、ありがとうございました。

本年度の地区ニュースの表紙は、八千代市で晩年を過ごされた国際的な版画家　星襄一氏の作品を使用させていただきました。そこで下記のクイズにお答えいただいた方の中から抽選で毎号25名の皆様に氏の作品を印刷した絵はがき（６枚入り）をプレゼントいたします。

プレゼントクイズ！

① ヘレン・ケラーが家庭教師サリバンの献身的な指導により、初めて発した単語は何でしょう。

② 世界中の平和と福祉を訴えるためにヘレンとポリーは20カ国以上を、廻り講演しましたが、彼女(ヘレン)たちは、日本には何回来日したでしょうか。

ご応募はＦＡＸにて①～②の回答及び、住所・氏名・在籍クラブ名・連絡先電話番号をご記載の上、333－Ｃ地区キャビネット事務局（ＦＡＸ番号 ０４３－２４７－４７５６）までご応募下さい（応募締切：12月末）。なお当選者につきましてはキャビネット事務局よりご連絡させていただきます。

《星襄一　プロフィール》

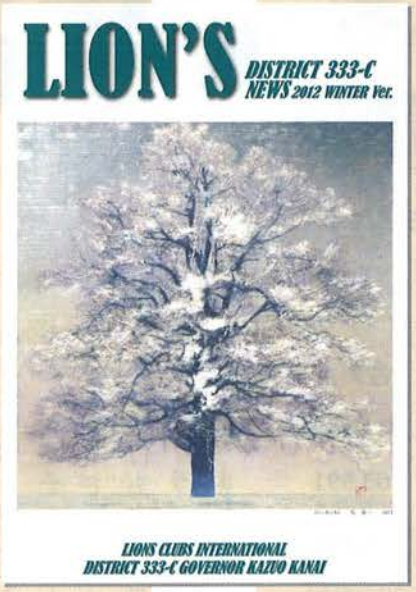
1913年（大正２年）	新潟県北魚沼郡小出町（現・魚沼市）に商家の長男として生まれる
1932年（昭和７年）	台南師範学校卒、現地にて教職13年
1946年（昭和21年）	戦後台湾より引揚げ、生地にて謄写版印刷業を営みながら孔版画を始める
1949年（昭和24年）	日本版画協会展にて根市賞受賞
1952年（昭和27年）	日本版画協会会員となる
1956年（昭和31年）	武蔵野美術学校西洋画科卒　木版画独習
1959年（昭和34年）	国画会に「水」を出品、国画賞受賞　十日町合成工業の製品「スノリア」のデザイン顧問となる
1960年（昭和35年）	国画会会員となる　第２回東京国際版画ビエンナーレに出品　以後74年までサンパウロ国際版画ビエンナーレ他様々な国際版画展に出品
1969年（昭和44年）	ニューヨークにて現代日本版画巡回展
1970年（昭和45年）	『樹シリーズ』に取り組む　オレゴン大学にて100人の日本版画巡回展
1974年（昭和49年）	ジャパン・アート・フェスティヴァル
1975年（昭和50年）	第１回日本縦断　星襄一　木版画展（６都市）、オーストラリア旅行
1976年（昭和51年）	10月22日八千代市勝田台に居住 星襄一　木版画自選展（７都市）、ジャパン･アート･フェスティヴァル
1977年（昭和52年）	ベルギー・ブラッセルにて現代日本版画展、個展（６都市）、モンゴル取材旅行
1978年（昭和53年）	第２回日本縦断　星襄一　木版画展（８都市）
1979年（昭和54年）	６月17日病没　享年66歳　　11月「星襄一自選作品集」発行（阿部出版）

次号予告（第３号）（*WINTER ver.*）

GLTの活動報告

今年度からスタートした、GMTとGLTそしてGATの組織編成がありました。特にGLTについては、国際本部ではこれからの人材育成と共に、質の高い組織へ、また質の高いリーダーシップの発揮できる、より多くの人材の発掘、育成に力を入れています。

我々333-C地区では、昨年度から、いち早くその準備を進めてきました。そして地区ガバナーL金井一夫の船出となり、新たな取り組みを手探りとは言え、素晴らしい実績を残しています。その旗振り役で活躍しているGLTコーディネーターとしてチームリーダーのL仙田秀一に、その取り組みについてお伺いいたします。



ガバナー公式訪問

各リジョン単位で行われた、ガバナー公式訪問のレポートを掲載します。

クラブ・レポート

各クラブから投稿された、クラブアクティビティを掲載します。

クラブニュース 投稿について

第3号・第4号に、全クラブのアクティビティを掲載いたします。
まだのクラブは、地区情報委員から呼びかけしますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

投稿先: **kanji@lionsclub333c.org**

前号のお詫びと訂正

1) p23　長期計画委員会　9行目 BMT ➡ GMT
2) p24　1R2Z ZC矢島 重夫 ➡ 谷島 重夫
3) p50　齊藤貞夫 ➡ 齊藤 貞雄
4) p50　吉田正勝 ➡ 吉田 政勝
5) p50　塚田雄二 ➡ 塚田 雅二

以上、正誤表を持って訂正し、謹んでお詫び申し上げます。

編集後記

地区情報委員長　L松本宰史

地区ニュース第2号については、地区ガバナーL金井一夫が、東日本大震災で被災地入りしての構想でした。特に将来を担う、ライオンズマンとなるレオ達に「ボランティア体験をさせて上げたい」と当初より熱望していた事が、地区青少年育成・レオ委員長L大瀧勝明により実現できたことは、素晴らしい結果となりました。地区ニュースでも特集に相応しい記事扱いとなっています。

そして、第一回日本女性フォーラムを333－C地区がホストとなり、地区第1副地区ガバナーL長澤千鶴子が、実行委員長として開催。一足早いお年玉として、国際理事（アメリカとアイスランド）2名の女性理事が急遽来日参加することになり、盛会裏のうちに終了する事ができ、日本でもビッグニュースとなりました。それには元国際理事L後藤隆一のバックアップがあったことは言うまでもありません。

このフォーラムを掲載するために、当初発行予定日10月20日を変更いたしました。第3号は年明けとなるため、どうしても第2号に掲載することで、皆様に早くお知らせしたいと発行日を変更しましたが、今年度において、二大ビッグ事業となった事を掲載できたことは、とても良かったと思います。

これら我々の奉仕活動に対して、一般の方にも広く理解し知って頂くための、PR誌となることを期待しています。

世界最大の奉仕団体　ライオンズクラブ　入会のご案内

創始者
メルビン・ジョーンズ
【*Melvin・Jones*】

ライオンズクラブは1917年、
アメリカ合衆国シカゴで誕生しました。

私たちは、必要とされる地域ではどこでも奉仕活動に尽力します。

ライオンズクラブは1917年（大正六年）アメリカの青年実業家メルビン・ジョーンズによってシカゴで誕生しました。ライオンズの理念は多くの人の心をとらえ、その後、大変なスピードで、アメリカ国内はもとより世界各国にクラブが結成されていきました。

世界のライオンズクラブの現状

地区	クラブ数	会員数
世界	46,075	1,341,508
日本	3,257	103,591
333-C 地区（千葉県）	**138**	**3,536**

（2011年6月30日現在）

■1917年

アメリカの実業家メルビン・ジョーンズが、他者への奉仕を目的としてライオンズクラブを創立。その理念は多くの人の心をとらえ、世界各国にクラブが結成されていきました。

■1945年

ライオンズは、国際連合（国連）が協力を求めてきた最初の非政府組織の一つとして国際連合憲章の起草に助力しました。それ以来、国連の仕事をサポートしています。

■1952年

日本では、戦後1952年3月にライオンズクラブが誕生。その後、わずかの年月のうちに多数のクラブと会員を集め、現在では世界第3位のライオンズ国となっています。

■1990年

世界中から予防可能あるいは回復可能な失明を根絶するためのプロジェクト「視力ファースト・プログラム」を開始。

■2007年

ライオンズクラブは、イギリスの経済紙「ファイナンシャル・タイムズ」が国連グローバル・コンパクトと協力して実施したNGOの格付けで最高位を獲得。

東日本大震災支援

ライオンズとライオンズクラブ国際財団（LCIF）の、自然災害時の支援

世界各地で発生する大規模な災害に際しては、全世界のライオンズからの支援があります。世界各地のライオンズが被災地を直接サポートしたり、現地ライオンズから**フェイス・トゥ・フェイス**で、助けを必要とする地域の隅々にまで献身的に奉仕を続け、明日への架け橋を築いています。

世界の平和と地域社会の幸福を願うライオンズクラブ

ライオンズクラブの組織や活動内容をご存じでしょうか。
ライオンズクラブは国際的であり、世界最大の奉仕団体です。
現在、世界206ヵ国と地域に、約4万6千クラブ、134万人もの会員で構成されています。

千葉県（ライオンズクラブ国際協会333-C地区）でも138クラブ、約3600名の会員が地元のクラブメンバーとして奉仕活動をしています。

ライオンズクラブの会員は、それぞれの地元で「地域社会に役立つ奉仕活動をしよう」と集まった人たちです。
ライオンズクラブのモットーは「We Serve」「私たちは奉仕する」です。
私たちの社会は多くの奉仕を必要としています。

Liberty
【自由を守り】
Intelligence
【知性を重んじ】
Our
【我々の】
Nation
【国の】
Safety
【安全をはかる】

世界の平和と社会の幸せを願うライオンズクラブ会員は、地域社会の方々の協力を得ながら、労力と時間を提供し、広く社会福祉に役立つ奉仕活動を行っています。
例えば、献血活動や青少年育成・不良化防止活動、交通事故撲滅活動、環境保全、各種の清掃活動等々です。
ライオンズクラブは、地域社会の生活、文化、福祉向上等の奉仕活動を通して、世界の平和を願う、世界最大の奉仕団体です。

アイバンク顕彰碑　ヘレン・ケラー像建立除幕式

ライオンズは、視覚保護活動を世界規模で行っています。それには、ヘレン・ケラー女史との深い関係があります。1925年の国際大会においてヘレン・ケラー女史により「ライオンズよ、盲人の騎士たれ」とスピーチが行われ、その感動を受けて、視覚保護に対して様々な奉仕活動がおこなわれるようになりました。

アイバンク顕彰碑ヘレン・ケラー像除幕式は、2011年6月1日（財）千葉県アイバンク協会とライオンズクラブで千葉市中央公園にて執り行われました。

会員増強委員会より
入会メッセージ

ライオンズクラブは、1917年以来、地域社会への奉仕を通して人と人を結びつけてきました。あなたがお住まいの地域にもライオンズクラブが結成され、世界206ヵ国と地域に、4万6千以上のライオンズクラブに在籍する約134万人の会員の仲間となるチャンスです。

ライオンズの会員は、自分たちが住む地域社会を大切にし、助けを必要としている人々に手を差し伸べることに生きがいを感じる人々の集まりです。

■発行日　2011年11月20日　■発行人　地区ガバナー　L金井一夫　■編集人　地区情報委員長　L松本宰史
■発行　ライオンズクラブ国際協会333-C地区　〒260-0026 千葉市中央区千葉港4-3　千葉県経営者会館4F
TEL 043(243)2528　FAX 043(247)4756　URL http://lionsclub333c.org/
■印刷　㈱みつわ　〒261-0002 千葉市美浜区新港213-5